

GRASYS

GRASYS IDソフトウェア 操作説明書

- 1.本書の著作権は株式会社プラザクリエイトに属します。
- 2.本書の内容は、改良のため、将来予告なく変更する場合がございます。
- 3.本書の全部または一部を無断で複製することはできません。
- 4.本書内に記載している製品名の固有名詞は、弊社または各社の商標または登録商標です。
- 5.本書内に置いて、誤りや記載漏れなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 6.本プログラムの一部を利用または他目的のため利用した結果生じたいかなる問題について、弊社では5項にかかわらず、何ら責任を負うものではありません。予めご了承ください。

1 はじめに	8
1.1 プログラムの動作環境	8
1.2 Grasy IDソフトウェアとは	8
2 導入	9
2.1 プログラム	9
2.1.1 プログラムの起動	9
2.1.2 印刷までのながれ	12
2.1.3 ファイル操作	13
2.1.4 プロジェクトを作成する	13
2.2 旧ソフト（IDデザイン、ID DB）で作成したデータを使用する	13
2.2.1 デザインのインポート	14
2.2.2 データのインポート（ID DBのデータをインポート）	14
2.3 デザインを作成する	15
2.3.1 画面に定規やグリッドを表示する	15
2.3.2 両面機で裏面も使用する場合の設定	15
2.3.3 デザインの背景を設定する	17
2.3.3.1 背景を単色に設定する場合	17
2.3.3.2 背景に画像を設定したい場合	17
2.3 オブジェクトを配置する	19
2.3.1 図形オブジェクト	19
2.3.2 テキスト、バーコードオブジェクト	19
2.3.3 画像オブジェクト	20
2.3.4 直前の操作の取り消し、やり直し	20
2.3.5 オブジェクトの位置や大きさを変える	20
2.3.6 オブジェクトを削除する	21
2.3.7 オブジェクトの枠線を表示する	21
2.4 テキストオブジェクトの編集	22
2.4.1 位置とサイズ	22
2.4.2 枠内のテキスト位置	22
2.4.3 フォント、文字サイズの変更	23
2.4.3.1 テキストを枠にフィット	24
2.4.4 縦書き表示	24
2.4.5 入力内容の編集	25

2.5 画像オブジェクトの編集	25
2.5.1 画像の調整、大きさや配置を変更する	25
2.5.3 画像を変更する	30
2.5.4 ロゴや捺印イメージを入れたい場合	30
2.6 バーコードオブジェクトの編集	30
2.6.1 バーコードを枠にフィット	31
2.7 図形オブジェクトの編集	31
2.7.1 図形を変形する	31
2.7.2 線の長さ、角度を変える	31
2.8 レイアウト	31
2.8.1 複数のオブジェクトを選択する	31
2.8.2 整列	31
2.8.2.2 オブジェクトの整列	33
2.9 インクパネル指定	34
2.9.1 インクパネル指定	34
2.9.2 オブジェクトのパネル指定方法	35
2.9.3 パネル表示／非表示	36
2.9.4 オーバーレイ、蛍光パネル反転	36
2.9.5 インクリボンの設定	37
2.10 オブジェクトプロパティ	38
3 ファイル操作	40
リボンバー> ファイルタブ	40
3.1 デザインファイルを開く	40
3.2 ファイルを保存する	40
3.3 名前を付けて保存	41
3.3 最近使用したファイルを開く	41
3.4 プログラムの終了	41
4 印刷	41
4.1 印刷プレビュー	41
4.2 印刷	41
4.3 印刷できない場合	42
4.4 その他の印刷設定	42
4.5 画像モードとインクリボンの関係	44
4.5.1 画像表現の例	45

5 データベースとの連動	46
5.1 データ連動用入力フィールドの作成	46
5.1.1 入力フィールドの設定	46
5.1.2 テーブル名、入力フィールド名で使用出来ない文字等	46
5.1.3 入力フィールドの確認	50
5.2 基本値（デフォルト表示値）の設定	50
5.3 フィールドの編集、解除	50
6 磁気ストライプエンコード（ISO/JIS）	51
6.1 磁気設定ウィンドウ	51
6.2 オプションの設定	51
6.2.1 空のセルを自動で埋める	52
6.3.3 使用するトラックの選択	52
6.3.4 データベースのデータを磁気に入力	52
6.3.5 カードデザインの印刷と磁気エンコード	53
7 データベースの操作	54
7.1 データの操作	54
7.2 データの追加、修正	55
7.3 データの編集	57
7.4 画像の編集、変更	59
7.4.1 最適な画像サイズ	59
7.4.2 画像編集画面の機能	59
7.4.2.1 画像編集の各機能	60
7.5 データベースのデータを削除する	61
7.6 外部データをインポートする	61
7.6.1 EXCELデータをインポートする	62
参考：ワークシートの項目を連結して取り込む	63
参考：日付形式データを取り込む	64
参考：エクセルで画像を一括登録する	65
7.6.2 MDBデータをインポートする	67
7.7 データをエクスポートする	68
7.7.1 MDBファイル形式でエクスポートする	68
7.7.2 EXCELファイル形式でエクスポートする	68
8 デザインを変更する	70
8.1 フィールドを追加する	70
8.1.1 データベースと連動しないオブジェクトを追加する	70

8.1.2 データベースと連動するフィールドを追加する	70
8.2 データベースの設定を変更する	70
8.3 フィールド設定を変更する	71
9 差し込み印刷	72
9.1 データを選択する	72
9.2 データを印刷する	72
9.3 印刷時のエラー	73
9.4 データの印刷状態の変更	74
9.5 データ検索	74
9.6 データのフィルター検索	75
10 リボンバーの機能	76
10.1 ファイルタブ	76
10.1.1 新規作成	76
10.1.2 テンプレート	76
10.1.3 保存	76
10.1.4 開く	76
10.1.5 閉じる	76
10.1.6 印刷	76
10.1.7 データベース	77
10.1.8 履歴データの印刷	78
10.1.9 終了	78
10.2 ホームタブ	78
10.2.1 プロジェクト	78
10.2.2 フォント	79
10.2.3 テキスト位置	79
10.2.4 描画	79
10.2.5 整列	80
10.2.6 パネル指定	80
10.2.7 パネル反転	80
10.2.8 ページ	80
10.3 描画タブ	81
10.4 編集タブ	81
10.4.1 クリップボード	81
10.4.2 選択	81

10.4.3 画像補正	81
10.4.4 画像位置	82
10.4.5 パネル指定	82
10.4.6 パネル反転	82
10.5 表示タブ	82
10.5.1 表示	82
10.5.3 ズーム	82
10.5.4 パネル表示／非表示	83
10.5.5 ページ	83
10.6 オプションタブ	83
10.6.1 オプション	83
10.6.2 フィールド	83
10.6.3 設定	83
10.6.4 言語	84
10.7 データベースタブ	84
10.7.1 接続	84
10.7.2 設定	84
10.7.3 セキュリティ	85
10.7.4 印刷	85
10.7.5 印刷マーク	85
10.7.6 表 示	85
10.7.7 検 索	86
10.7.8 データ	86
11 サンプルデータの使用方法	87
11.1 サンプルファイルを使用する	87
11.1.2 手順	87
11.1.3 会社名などの変更	88
11.1.4 バーコードを追加	88
11.1.5 背景画像を差し替え	89
11.1.6 差込み印刷用の可変データを作成する	92
12 ユーティリティについて	92
13 ID130,150 磁気カード印刷時のご注意	92
13.1 両面機で磁気ストライプカードを印刷する	92
13.2 表面にカラー / 裏面に黒印字 + 磁気書込の場合	92

13.3 磁気面をオモテ面として使用する場合	93
13.4 印刷済カードを使用、磁気面に黒のみを印刷の場合	93
14 ID130,150 プリンターの詳細設定	93
14.1 詳細設定の機能	93
15 ID200 磁気カード印刷時のご注意	95
15.1 磁気エンコーダー取付面を確認する	95
15.2 エンコード前、後にカードを反転させる場合（両面機のみ）	96
16 ID200プリンターの詳細設定	96
16.1 詳細設定の機能	96
17 ご参考：プラグインについて	99
RF_ Plugin_Mifare1k.dllについて	99
設定	99

1 はじめに

本マニュアルは Grasy ID プリンタ専用のデザイン／データベースソフトウェア、Grasy IDソフトウェアの操作方法を記載しています。

1.1 プログラムの動作環境

Grasy IDソフトウェアは Grasy ID カードプリンタ用に開発されたデザイン／データベースソフトウェアです。このプログラムはプラザクリエイトが提供するGRASYS ID カードプリンタのみで使用可能です。

使用にあたってはGrasy ID カードプリンタ用ドライバが予めインストールされている必要があります。

安定した動作のための条件は下記の通りです：

OS: Windows 7、8、8.1、10

CPU: Pentium 1GHz 以上、メモリ:1GB 以上、空きディスク容量:500MB 以上。

エクセルファイルのデータをインポートする場合、エクセルがインストールされている必要があります。

1.2 Grasy IDソフトウェア とは

Grasy IDソフトウェアではISO CR-80規格のプラスチックカードにテキスト、画像、バーコード等をデザインし、内蔵データベースと連動した印刷やオプションの使用により磁気エンコードなどができます。

GRASYS IDソフトウェアは旧IDデザインソフトウェアとID DBソフトウェアを統合した新しいソフトウェアです。

旧IDデザインソフトウェアで作成したデザインはインポートして使用することが出来ます。

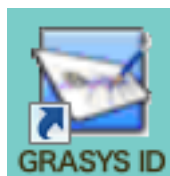
旧ID DBソフトウェアで作成したプロジェクトは互換性はありませんが、デザインとデータベースをインポートして使用することが出来ます。

2 導入

2.1 プログラム

2.1.1 プログラムの起動

GRASYS IDソフトウェアはウインドウズのスタートメニュー > すべてのプログラム > Grasy > GRASYS IDソフトウェアを選択または、デスクトップ画面のショートカットアイコンをダブルクリックしてプログラムを起動します



起動後にテンプレートウィザード画面が表示されます、この機能を使用しない場合は2.1.1.2 起動後の画面構成からお読み下さい。

2.1.1.1 テンプレートウィザード機能

GRASYS IDソフトウェアには既存のテンプレートを使用してカード作成を進めるテンプレートウィザード機能があり、起動直後に画面に表示されます。ウィザードを使用しない場合は「キャンセル」、今後表示しない場合は画面左下の「プログラムの起動時に自動的に実行」のチェックを外します。

*この機能はソフトウェアのファイルメニューから起動することができます

1. タイプ選択

カードの仕上がり方向を指定します

横位置－片面

横位置－両面

縦位置－片面

縦位置－両面

指定後、「次へ」をクリックします



2. エンコードの有無、種類を指定します

エンコードなし
非接触ICカード
接触IC・非接触ICカード

磁気カード
磁気・接触ICカード
磁気・接触IC・非接触ICカード

接触ICカード
磁気・非接触ICカード



<ご注意>

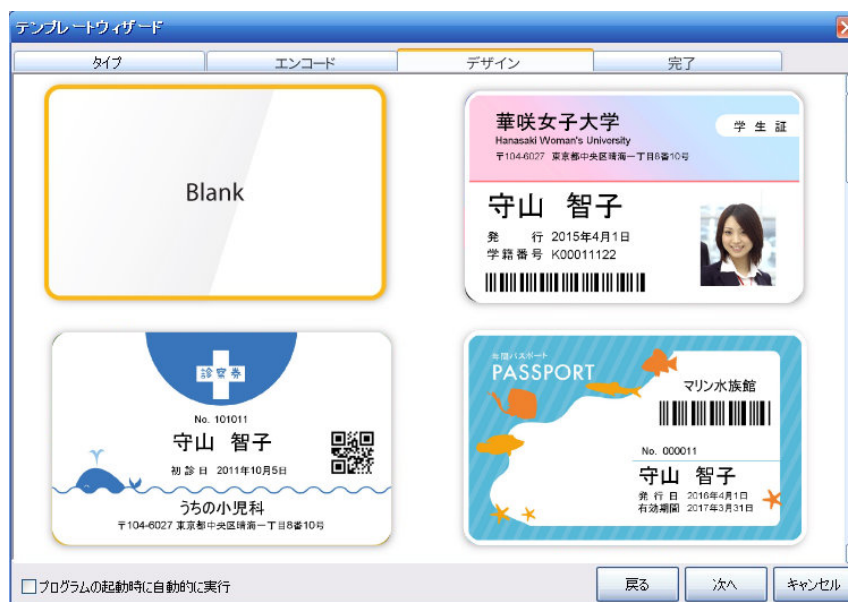
- * 磁気カードのエンコードにはオプションのエンコーダーを内蔵する必要があります
- * ICカード (Mifare) のエンコードは本ソフトウェア用のプラグインを開発して頂く必要があります
- * オプションで非接触カード、Mifareシリーズ、Felica Lite-S発行用のソフトを用意しています。

選択後、「次へ」をクリックします

3. デザインを選択します

デザインの背景や文字の位置、項目の増減はウィザード終了後に編集することが出来ます。

最初から背景や、文字、項目などをご自身で設定されたい場合は「Blank」を選択して「次へ」をクリックします。



4. 生成されるプロジェクトファイルの保存場所と選択内容を確認して終了です。

プロジェクト名：名称を入力します

プロジェクトの場所：

保存場所を指定します

エンコード種：

指定したエンコードの種類が

表示されます

プリンタの種類：

接続されているID200が表示

されます

プリント面：

指定した片面/両面の何れか

が表示されます

印刷方向：

指定した縦/横のいずれかが

表示されます

テンプレート：

選択したデザインの名称が表示されます



「戻る」ボタンで前の画面に戻る事ができ、「確定」ボタンで終了します

終了後は選択したデザインでプロジェクトファイルが作成され、下記の画面にデザインが表示されます。

*これらの操作は2.1.4のプロジェクトファイルを作成すると同じ操作です。

確定後はデザイン画面が表示されますので、2.3デザインを作成するへお進み下さい。

ご注意

磁気エンコードを選択された場合

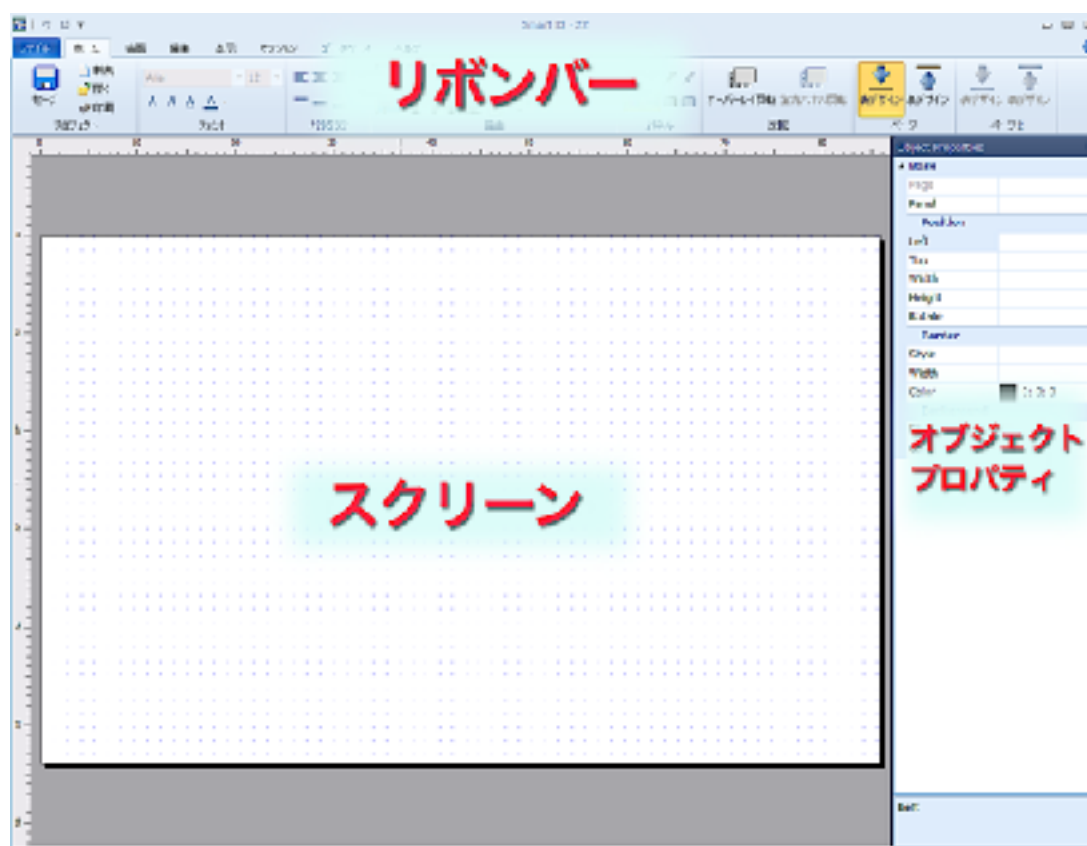
エンコードオプション全てが選択された状態になりますのでオプションタブー磁気設定でご利用いただく磁気エンコード以外のチェックを外して使用してください。

両面デザインを選択された場合

裏面のデザインはblankの状態に設定されます。デザインを設定いただくか、マイドキュメントーGrasysIDフォルダ内のテンプレートフォルダに裏面デザインサンプル（CSDファイル）が保存されていますので、ファイルを開き、全体を選択（CTRL+A）、コピー（CTRL+C）し、裏面に貼り付けて使用してください。

2.1.1.2 ソフトウェア起動後の画面構成

画面は機能等を選択するリボンバー、デザイン作成やデータを確認するスクリーン、オブジェクトの詳細を表示・調整するオブジェクトプロパティから構成されています。



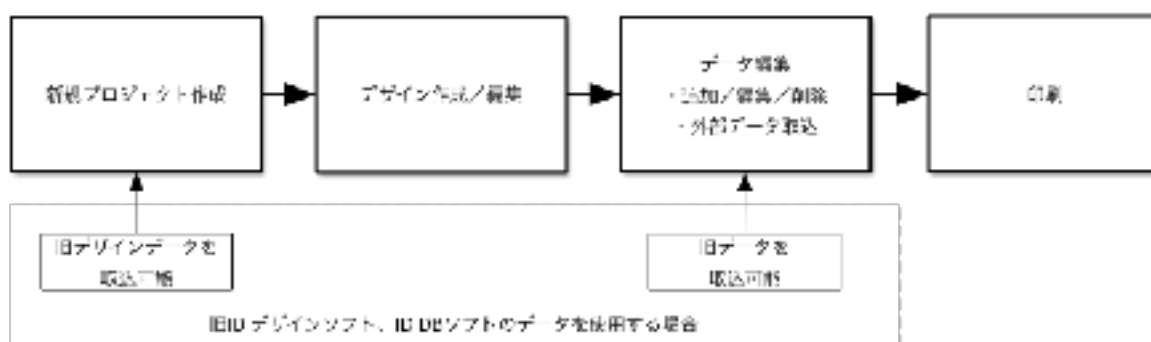
リボンバー：メニューや機能を選択します

スクリーン：デザインを作成したり、データを確認する部分です

オブジェクトプロパティ：テキスト、バーコード、画像などの詳細の確認や設定を行ないます

2.1.2 印刷までのながれ

はじめに、プロジェクトを作成すると関連ファイルが自動生成されます。その後デザインやデータの差し込み項目を設定し、データの追加・編集をして印刷を行ないます。



2.1.3 ファイル操作

GRASYS IDソフトウェアの起動時はデザイン作成が可能な状態になっています。

* デザインだけを作成したい場合はこのままご利用いただけます。

* データベースと連動したデザインを作成する場合は新規アイコンをクリックしてスタートします。

ファイル操作にはリボンバー＞ホームタブの下記アイコンを使用します。



新規作成 新しいプロジェクトを作成します



ファイルを開く 既存のプロジェクトを開く、既存のデザインを開く



保 存 現在開いている／作成しているプロジェクトまたは作成中のデザインを保存します

2.1.4 プロジェクトを作成する

新規ボタンをクリックするとNewProjectウインドウが表示されます。

名称 : プロジェクトの名称を入力して下さい

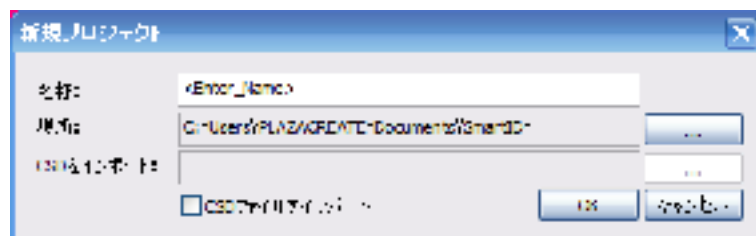
場所 : プロジェクトの保存場所を選択して下さい

新規作成の場合は上記 2 項目を入力した状態でOKボタンをクリックします。

* 既存のデザインファイル（CSD）がある場合はデザインをインポートして使用することが出来ます。

CSDファイルをインポート : 既存のデザインファイルがある場合は下記のImport CSD Fileにチェックを入れるとこの項目が有効になり、CSDファイルを選択することが出来ます。

☐ CSDファイルをインポート : デザインファイル（CSD）を取り込む場合にチェックします。



インストールCDにはあらかじめデザインとオブジェクトを配置済のサンプルデザイン等が含まれています。

11. サンプルデータの使用法 をご確認ください。

2.2 旧ソフト（IDデザイン、ID DB）で作成したデータを使用する

あらかじめ使用中のデザインファイルやプロジェクトフォルダの場所を確認しておきます。

GRASYS IDデザインのデザインのみ使用の場合 : デザイン（CSDファイル）

GRASYS ID DBのデザインとデータを使用する場合 : プロジェクトフォルダ内にプロジェクト（CSPファイル）、デザイン（CSDファイル）、データベース（mdbファイル）等が保存されています。

はじめにID DBソフトでデータをエクスポートしておきます。（MDB、エクセルどちらでも可）

2.2.1 デザインのインポート

IDソフトウェア新規プロジェクトを作成する際にデザインデータ（CSDファイル）をインポートして既存のデザインや入力項目、磁気設定などを反映します。

ファイルタブ> 新規をクリック

プロジェクト名（同じ名称でも可）と保存場所（異なる場所）を設定し、CSDをインポートするにチェックを入れるとファイルを選択できるようになりますのでインポートするCSDファイルを選択して下さい。

デザインに入力フィールドがある場合、自動的にデータベース項目として設定され、空のデータベースが作成されます。

2.2.2 データのインポート（ID DBのデータをインポート）

プロジェクト作成後はデザインの入力項目に従って空のデータベースが出来上がりますので、旧データをMDBまたはエクセルファイルで取り込むことができます。

旧データはMDB形式でCSPフォルダ内のプロジェクトフォルダに保存されており、
ファイル> データベース> インポート> MDBでデータを取り込むことが可能です。

（上記の旧CSDファイルと同じ場所にあります）

* インポートの開始前に旧データに印刷項目以外の情報が無いか確認しておきましょう。

ID DBソフトでファイル> データベース> エクスポート> EXCELをクリックしてEXCELファイルに書き出すと確認が容易です。（このEXCELファイルはそのままインポート用に利用可能です）

EXCELにPRTMARK、PRTINFO、PICT_CONFIG以外で印刷項目ではないデータがある場合は、あらかじめGRASYSIDソフトのデータベースに項目を追加しておく必要があります。

印刷項目以外のフィールド項目が足りない場合はデータベースタブ> 切断> MDB接続をクリックするとMDB管理画面でフィールドを編集・追加・削除することができますので、設定後にデータをインポートしてください。

MDBファイルをインポート

ファイルタブ> データベースでインポート> MDBをクリックします。

ファイル参照画面が表示されますので、旧データ（MDBファイル）を選択して下さい。

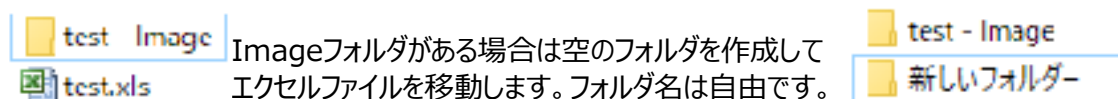
ファイル選択後、MDBインポート画面が表示されます。

MDBフィールドの項目を選択してDBフィールドに合わせてインポートボタンをクリックして下さい。

インポート完了後、データベースタブをクリックするとインポートしたデータが表示されます。

EXCELファイルをインポートする場合（エクセルがインストールされていることが必要です）

重要：旧ID DBソフトウェアで差し込み画像を使用しており、エクスポートしたデータにimageフォルダが含まれる場合のみ、フォルダ内に空のフォルダを作成してEXCELファイルを新しいフォルダへドラッグして移動して下さい。差し込み画像がない場合はそのまま使用可能です。



ご注意 * Excelファイルからのインポートの場合、画像の調整やトリミング情報は反映されませんので注意して下さい

インポートするにはファイルタブ> データベースでインポート> EXCELをクリックします。

ファイル参照画面が表示されますので、使用するEXCELファイルを選択して下さい。

ファイル選択後、EXCELインポート画面が表示されます。

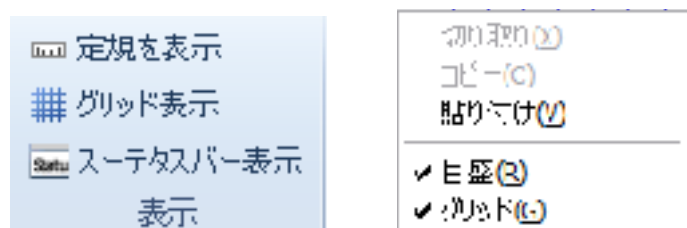
EXCELフィールドの項目を選択してDBフィールドに合わせてインポートボタンをクリックして下さい。

インポート完了後、データベースタブをクリックするとインポートしたデータが表示されます。

2.3 デザインを作成する

2.3.1 画面に定規やグリッドを表示する

はじめに、スクリーンにグリッドや定規（目盛り）、ステータスを表示しておく便利です。



スクリーン上でマウスの右クリックメニューで目盛、グリッドを選択することができます。

また、リボンバー＞表示タブで目盛りリボンバー選択表示、グリッド表示、ステータスバー表示をクリックすると表示／非表示できます。黄色は表示されている状態です。

画面のオブジェクトのない場所でマウス右クリックで表示されるメニューからでも選択できます。



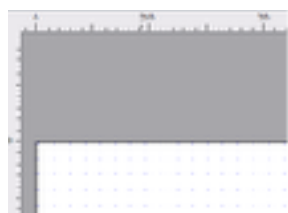
定規を表示

デザインの左側と上部に定規を表示します、作成したオブジェクトをクリックすると定規に枠の大きさが線で表示されます。



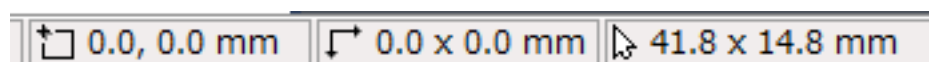
グリッド表示

デザイン用のスクリーンに点線の方眼を表示します、複数のオブジェクトの縦・横の位置がわかりやすくなります。



ステータスバー表示

画面右下部に選択したオブジェクトの左上の座標、大きさ、左上の座標、現在のカーソルの座標をmm単位で表示します。



2.3.2 両面機で裏面も使用する場合の設定

ID130・150・200を使用する場合は片面ずつ印刷しますので、オモテ面のデザインとウラ面のデザインをそれぞれ作成し、それぞれ別に印刷します。裏面は固定された情報のみの場合が多く、この場合は裏面だけを先に印刷しておく効率が良くなります。

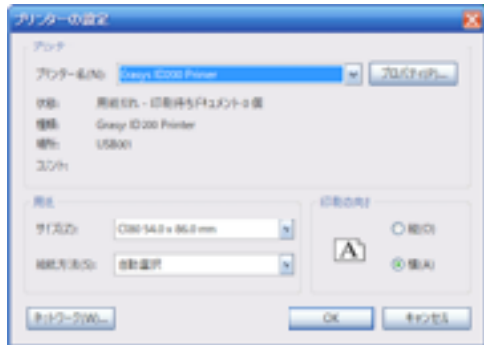
ローテータ、ラミネータ付きの機種では同時に裏面の印刷が可能です。

リボンバー＞ページにあるアイコンで表デザイン・裏デザインの切り替えができます。

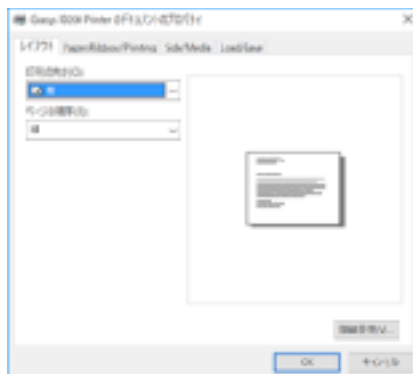
下図は裏デザインのアイコンが淡く、無効になっており表デザインのみが使用できる状態です。

裏面デザインを作成するには リボンバー> ファイルタブ> プリント設定を選択してプリンタの設定画面からプロパティで設定します。

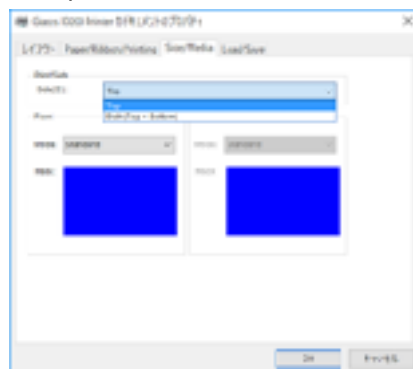
※注 デザインは作成可能ですが、両面印刷対応機のみで使用可能です。



プロパティをクリックします



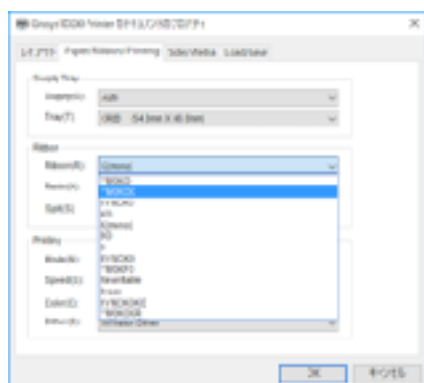
Side/Mediaタブを選択します



Print SideをBoth(Top+Bottom)で選択してOKボタンをクリックします。

※Topは片面、Bothは両面です

カラーのデザインを作成したいがカラー用のリボンがない場合、カラー用のリボンが入っているが黒のみのデザインを作成したい場合は続けて Paper/Robbon/Printingタブを選択します。



Ribbon項目を下記から選択してください。

片/両面用：YMCKO：フルカラー（※Split設定で両面对応可）

両面専用：YMCKOK：片面フルカラー/片面ブラック

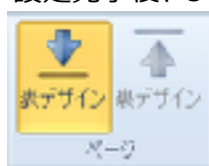
片/両面用：hYMCKO：半面フルカラー

片/両面用：KO：ブラック+オーバーレイ

片/両面用：K(mono)：ブラック（ホワイト、その他単色用）

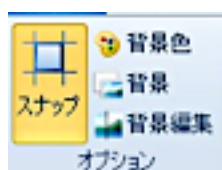
片/両面用：YMCKFO：フルカラー、蛍光パネル付き

設定完了後、OKボタンをクリックすると、裏デザインが有効になり選択できる状態になります。



2.3.3 デザインの背景を設定する

リボンバー> オプションタブ



2.3.3.1 背景を単色に設定する場合



背景色

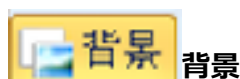
リボンバー> オプションタブ> 背景色ボタンをクリックして背景の色を選択します。色を変更したい場合は再度繰り返して下さい

※この場合、背景の表示/非表示は使用出来ません。

背景色を解除したい場合はもう一度背景色ボタンをクリックし、白を選択して下さい



2.3.3.2 背景に画像を設定したい場合

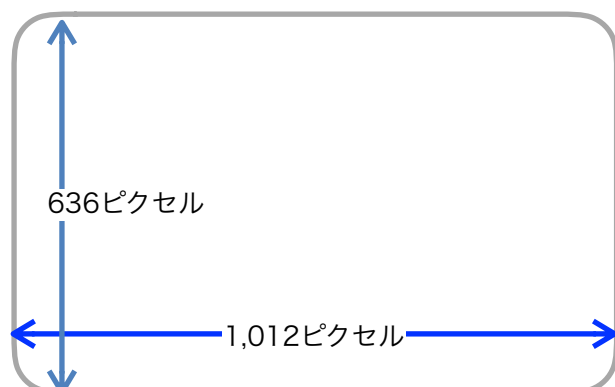


背景

リボンバー> オプションタブ> 背景編集をクリックして画像を選択すると画像がカードの幅に合わせて配置されます

この時、自動的に背景ボタンが黄色くなり、ON状態となります。

もう一度背景ボタンをクリックすると背景が非表示になり、デザイン作成時に他のオブジェクトが見えやすくなります。



最適画像サイズ：638x1012ピクセル（5.4x8.56cm、実寸で300dpi）

画像フォーマット：BMP、Jpeg、

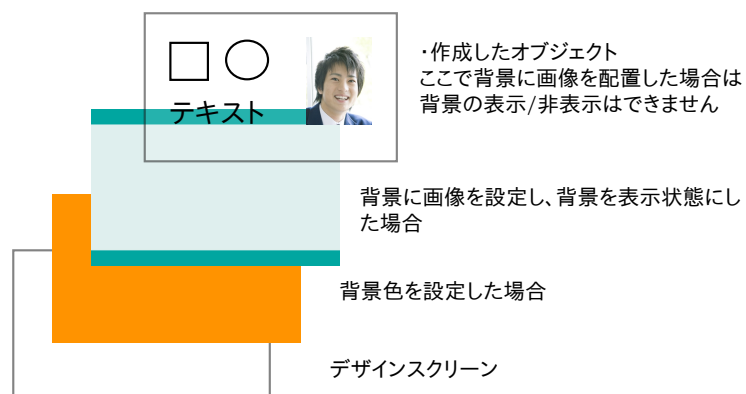
カラーフォーマット：RGB（カラー／グレースケール）



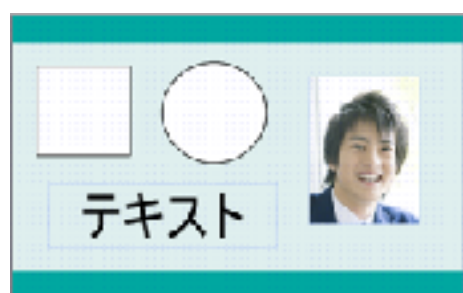
背景編集

背景を変更したい場合は背景編集ボタンをクリックし、スクリーンの背景上でマウスを右クリックしてイメージ切替を選択すると、画像を選択することが出来ます。削除したい場合はもう一度背景編集ボタンをクリックし、Deleteキーを押下して下さい。

画面の見え方



背景色オレンジ、背景画像を設定、背景を表示の場合



同、背景画像を設定していない場合の見え方



2.3 オブジェクトを配置する

リボンバー> ホームタブ> 描画または描画タブ> 描画で作成したいオブジェクト（テキスト、画像、図形、バーコードなど）のアイコンをクリックします。



スクリーン上でカーソルが+マークに変わりますので、配置したい場所の左上（開始点）から対角の終了点へドラッグするとオブジェクト枠が設定され、表示されます。

2.3.1 図形オブジェクト

図形を描画する場合、シフトキーを押しながらドラッグすると、正方形、正円、角丸正方形、水平または垂直の線を作成できます。

 始点（左上）から終点へドラッグして四角形を描きます。正方形を作成したい場合はシフトキーを押しながらドラッグして下さい

 始点（左上）から終点へドラッグして角丸四角形を描きます

 始点（左上）から終点へドラッグして円形を描きます。正円を作成したい場合はシフトキーを押しながらドラッグして下さい

 始点から終点へドラッグして線を描きます。水平／垂直線を作成したい場合はシフトキーを押しながらドラッグして下さい

※これらのオブジェクトは配置後に入力や編集することも可能です。

※オブジェクトを複数作成したい場合はマウス右クリックのコピー・貼付けが利用可能です。

2.3.2 テキスト、バーコードオブジェクト

 テキストを配置する枠を描きます。始点（左上）から終点へドラッグしてテキスト枠を描きます。続いて文字列の入力ウィンドウが表示されますので、入力してOKをクリックします。

 バーコードを配置する枠を描きます。始点（左上）から終点へドラッグしてバーコード枠を描きます。続いて値の入力ウィンドウが表示されますので、入力してOKをクリックします。

 2次元バーコードを配置する枠を描きます。始点（左上）から終点へドラッグしてバーコード枠を描きます。続いて値の入力ウィンドウが表示されますので、入力してOKをクリックします。

※これらのオブジェクトは配置後に入力や編集することも可能です。

※オブジェクトを複数作成したい場合はマウス右クリックのコピー・貼付けが利用可能です。

2.3.3 画像オブジェクト



画像を配置する枠を描きます。始点（左上）から終点へドラッグして画像枠を描きます。ファイルを開くウィンドウが表示されますのでファイルを選択して開くをクリックします。

※オブジェクトは配置後に入力や編集することも可能です。

※オブジェクトを複数作成したい場合はマウス右クリックのコピー・貼付けが利用可能です。

2.3.4 直前の操作の取り消し、やり直し

リボンバーの編集タブのキャンセル、やり直し機能で直前の操作をキャンセル、やり直しすることができます。



元に戻す

直前の操作の取り消し、一回のみ有効です



やり直し

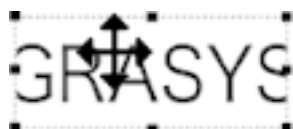
直前の操作のやり直し、一回のみ有効です

2.3.5 オブジェクトの位置や大きさを変える



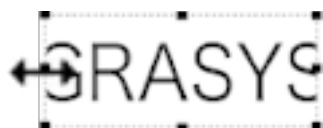
位置を変える

オブジェクトの上にカーソルを移動し、カーソルが  から  になったら、そのままドラッグして位置を移動します。
* 空のオブジェクトの場合は黒いハンドル以外の枠の部分にカーソルをあてるとカーソルが変化します。



大きさを変える

オブジェクト枠の四角の黒いハンドル部分にカーソルを移動し、  から  になったら、ドラッグして枠の大きさを変えることができます。



オブジェクトの角にカーソルがある場合、斜め方向の矢印になります。このままドラッグすると拡大・縮小ができます。オブジェクトの縦横比を変えたくない場合はシフトキーを押しながらドラッグして下さい。



オブジェクトの左右にカーソルがある場合、左右にドラッグすると幅を変更出来ます



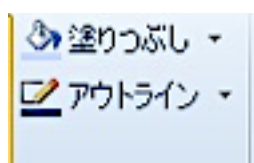
オブジェクトの上下にカーソルがある場合、上下にドラッグすると高さを変更出来ます



2.3.6 オブジェクトを削除する

オブジェクトを選択し、Deleteキーを押すか、マウスを右クリックして表示される「切り取り」を使用します。

2.3.7 オブジェクトの枠線を表示する



リボンバー＞ホームタブで設定することができます。

塗りつぶし：オブジェクト内の塗りつぶしの色を選択

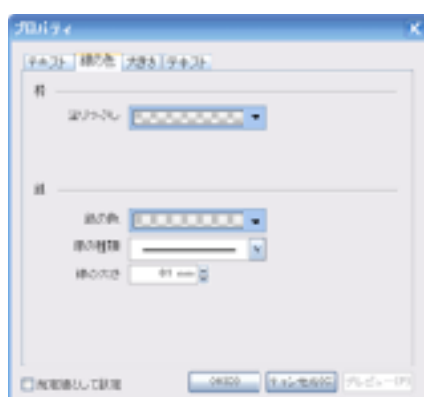
アウトライン：枠線の色、種類、太さを設定

またはオブジェクトをダブルクリックして表示されるプロパティウインドウで設定します

*テキスト・バーコード項目はデフォルトで黒リボン印刷に設定されているため、塗りつぶすと全て黒になってしまいます。黒字で黒リボンを使用する場合、背面にカラーのオブジェクトを追加するか、テキストをカラーパネルに指定します。この場合、テキストはカラーリボンで印刷されますので完全な黒になりません。

黒リボン：単色のブラック（K）

カラーリボン：YMCで合成されたコンポジットブラック



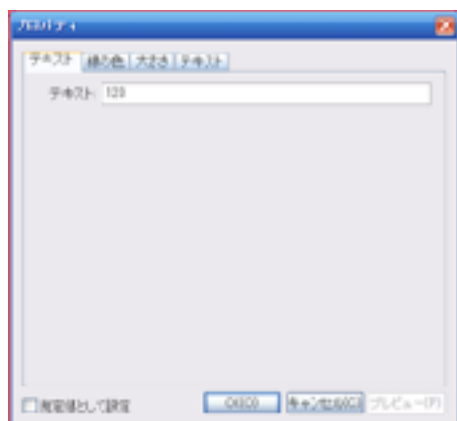
線の色タブをクリックすると設定項目が表示されます。

色：枠内の塗りつぶしの色を設定

線の色：線の色、種類、太さを設定

テキスト・バーコード項目の場合は黒インクで印字される設定になっていますので枠を塗りつぶすと色が反映されずに印刷時に黒くなってしまいます。この場合はテキストオブジェクトの背面にカラーオブジェクトを設定すると良いでしょう

2.4 テキストオブジェクトの編集



テキストオブジェクトを選択してダブルクリックあるいは右クリックのプロパティを選択するとプロパティウインドウが表示されます。

左の「テキスト」タブを選択すると、文字列またはバーコードの値を直接入力して変更することができます。

大きさタブを選択するとテキスト項目の大きさを変更することができます。

2.4.1 位置とサイズ



横位置・縦位置：カード左端・上端からの枠の左上の位置を設定

幅・高さ 枠の大きさ

回転 角度を設定

倍率 大きさを倍率で設定

※縦横比固定にチェックが入っている場合は幅・高さが連動し、チェックが入っていない場合は個々に設定出来ます

2.4.2 枠内のテキスト位置



枠内のスペース 枠内の上下左右のスペースを設定します

整列 枠内のテキストオブジェクトの縦方向（垂直方向）/横方向の（水平方向）の並び方を設定します。

		縦方向		
		上寄せ	中央寄せ	下寄せ
横方向	左寄せ	GRASYS	GRASYS	GRASYS
	中央寄せ	GRASYS	GRASYS	GRASYS
	右寄せ	GRASYS	GRASYS	GRASYS
	均等配置	GRASYS	GRASYS	GRASYS

文字配置の変更はリボンバー> ホームタブの段落／位置、または描画タブ> 段落／位置でも設定が可能です。
テキストオブジェクトを選択して下記アイコンをクリックして文字配置を変更します



横方向：左揃え/中央揃え/右揃え/均等配置

縦方向：上寄せ/中央寄せ/下寄せ



テキストを左揃えにします



テキストを中央揃えにします



テキストを右揃えにします



テキストを均等配置にします



テキストを上揃えにします

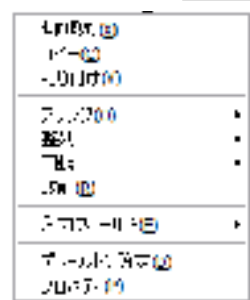


テキストを中央揃えにします



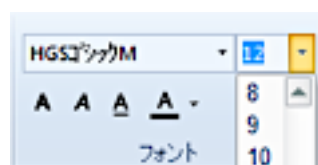
テキストを下揃えにします

テキスト項目の右クリックメニューでもアレンジ（重ね順）、整列、回転、文字列の改訂などを選択できます。

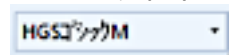


2.4.3 フォント、文字サイズの変更

テキストオブジェクトを選択して、リボンバー> ホームタブ> のフォント、描画タブのフォント、または画面右のオブジェクトプロパティ> Fontでフォントの種類とサイズ等を設定出来ます。



フォントの色を設定します



フォントの種類を設定します



フォントの大きさを設定します

*テキスト、バーコード項目をカラーで印刷する場合は項目を選択してカラーパネルに指定する必要があります

2.4.3.1 テキストを枠にフィット

リボンバー> オプションタブ> 設定



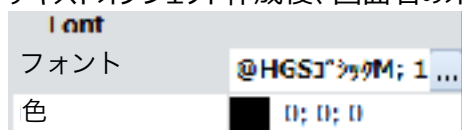
+ABC+

クリックしてONに設定すると、以後テキスト枠に合わせて文字サイズが自動調整されます。作成する全てのテキストオブジェクトに適用されますが、個々に設定を変更することが出来ます。

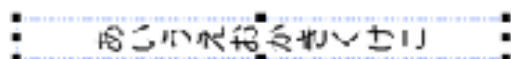
2.4.4 縦書き表示

文字列の縦書きは全角の大文字と小文字のみ可能です。

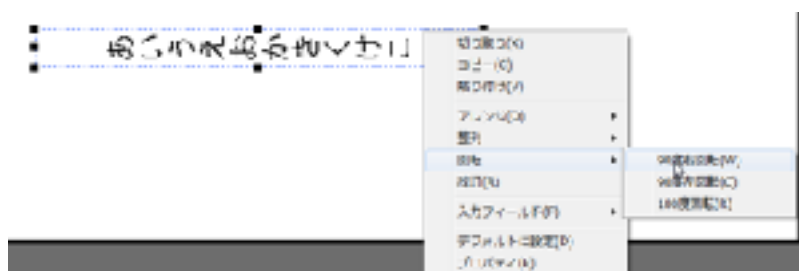
テキストオブジェクト作成後、画面右のオブジェクトプロパティ> Font項目で@付きのフォントに変更します



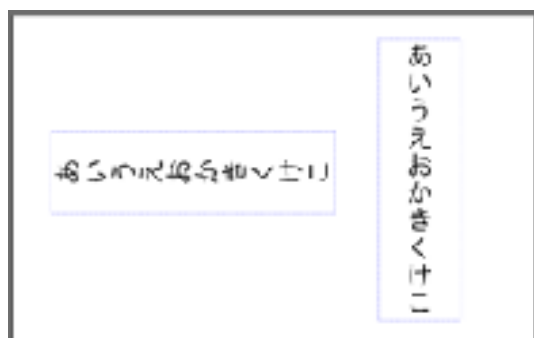
テキストオブジェクトは文字が寝た状態になります



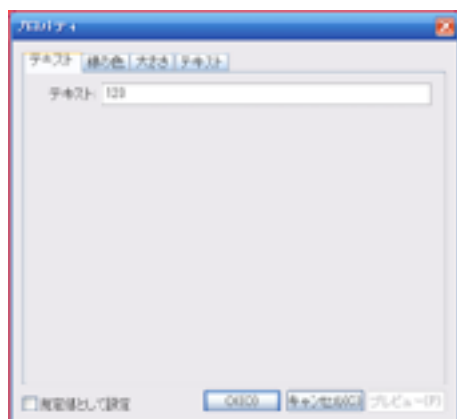
テキストオブジェクトを選択し、マウスを右クリックして表示される回転-90度右回転を選択すると正しく表示されます



※あるいは画面右のオブジェクトプロパティのRotateを90に設定します。



2.4.5 入力内容の編集



テキストオブジェクトをダブルクリックするとプロパティウィンドウが表示されます。

テキストタブで入力内容を直接編集することができます。あるいはオブジェクトを選択し、画面右側のオブジェクトプロパティのData-Text欄に表示されている入力内容を直接編集することができます

Data	
文字列	GRASYS動物公園
Field	

2.5 画像オブジェクトの編集

2.5.1 画像の調整、大きさや配置を変更する



画像オブジェクトをダブルクリックするとプロパティが開きます、イメージタブを選択して詳細を設定することが出来ます

<拡大の方法> 枠の幅にフィット



画像枠の横幅に合わせて表示します。画像の縦横比は元画像と変わりません。縦方向は成り行きの表示になり、余白が表示される場合があります。

枠の高さにフィット



画像枠の高さに合わせて表示します。元画像と縦横比は変わりません。横方向は成り行きの表示になり、画像が切れる場合があります。

枠のサイズにフィット



画像枠に合わせて表示します。縦横比を画像枠に合わせるため、元画像の縦横比と異なる場合は縦/横 どちらかが伸びた画像になりますので注意して下さい

任意設定



縦横比を設定できます。

※画像と画像枠の縦横比は考慮されません。

任意設定で縦横比を設定・変更できます、「縦横比率固定」にチェックを入れると元画像と同じ縦横比を維持することができます。オリジナル幅、オリジナル高さは元画像のサイズを表示していますのでこれらの値を調整用に参考にすることができます。

* 設定のめやす

枠の大きさは画像のズームにより表示サイズが変化します。

元画像が横位置でトリミングの必要がない場合、枠の幅にフィットを使用

元画像が縦位置でトリミングの必要がない場合、枠の高さにフィットを使用

トリミングが必要な場合、ユーザー任意設定



<回転>

画像を90度ずつ回転することができます。

<反転>

横方向反転は右左の逆像、縦方向反転は上下の逆像です。（回転ではありません、鏡像です）



<整列とオフセット>

テキストの段落のように画像枠内で横方向の位置と縦方向の位置を設定します。



「イメージ効果」では色、コントラスト、明るさを調整できます。

<色>

色では画像をカラーまたはグレースケールは画像をモノクロに設定します。



<コントラスト>

コントラスト調整では画像の明暗を調整します。50%が中間値で元画像と同じ状態です。調整幅は 0 から 100%で調整バーを動かすか、値を直接入力することができます。



輝度

輝度調整では明るさの程度を調整します。50%が中間値で元画像と同じ状態です。調整幅は 0 から 100%で調整バーを動かすか、値を直接入力することができます。



不透明度

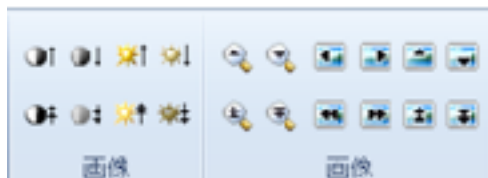
画像の透明度（透過度）を設定することができます、不透明度100%で画像は透明度 0 で、値を小さくすると透明度が高くなります。



不透明度を利用して画像の背面にデザインや文字列がある場合、透過させることができます。



画像の調整はリボンバー＞編集タブ＞「イメージ」の下記アイコンでアイコン操作でも行うことができます。



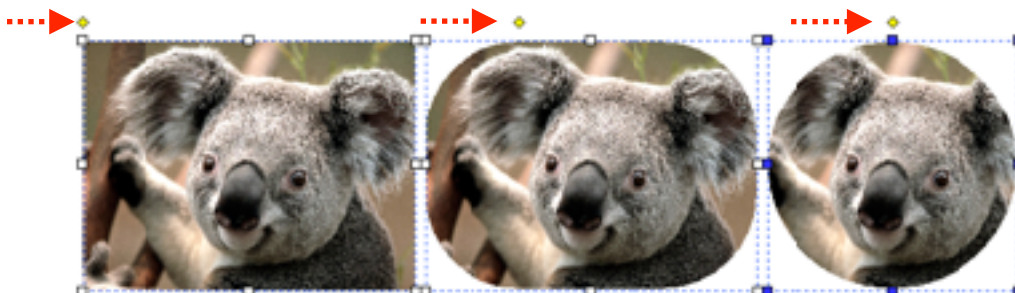
コントラスト	コントラストを調整します 右側：上げる、左側：下げる 上段：小幅調整、下段：大幅調整
明るさ ズーム	明るさを調整します 右側：上げる、左側：下げる 上段：小幅調整、下段：大幅調整 画像枠内でズーム 右側：上げる、左側：下げる 上段：小幅調整、下段：大幅調整
位置	画像枠内で位置調整 左へ、右へ、上へ、下へ 上段：小幅調整、下段：大幅調整

ズームの倍率、移動幅の設定はオプションタブのズーム幅設定で調整することができます。



画像を丸く表示したい

画像オブジェクトを選択すると、画像の左上に黄色の◇マークが現れます。マウスで右方向にドラッグすると角丸の大きさを変更することができます。完全な円形にするには、画像オブジェクトの形を正方形にして黄色の◇マークを中央までドラッグしておき、上下に余白がある場合は画像をズームで拡大します。



2.5.3 画像を変更する

画像オブジェクトを選択し、マウス右クリック> イメージ切替で画像を再度選択しなおすことができます。

2.5.4 ロゴや捺印イメージを入りたい場合

・ロゴ入りの背景画像を使用する

ロゴ等を配置済の背景画像を作成して使用します。あらかじめ背景デザインにロゴを配置した画像として作成しておきます。

・画像オブジェクトとしてロゴ等の画像を配置する

背景に色がある場合はPNG形式の透過画像を使用することが可能です。

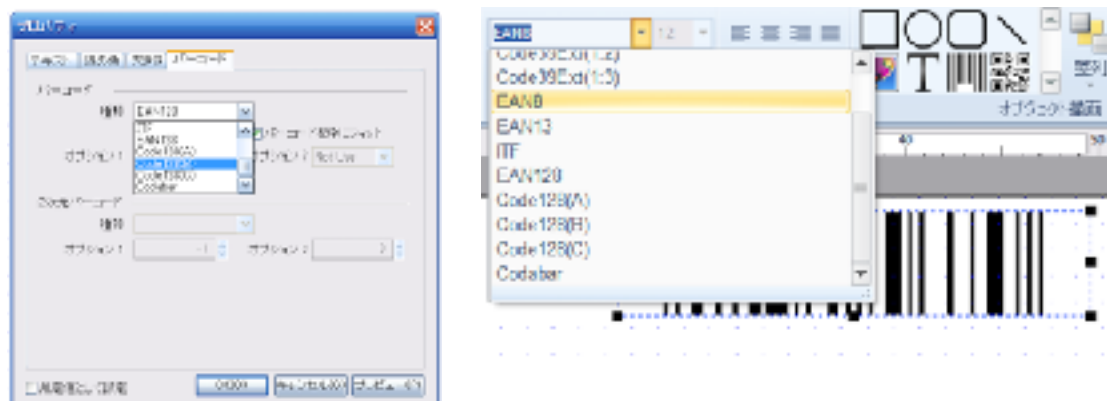
実寸で解像度300dpiの画像を使用して下さい。

例：配置サイズが1cm角の場合

$(1\text{cm} \div 2.54\text{cm}) \times 300\text{dpi} \approx 118\text{ピクセル}$ 、幅、高さともに118ピクセルの画像サイズが標準です。

背景色と重ならない場合は透過画像の必要が無いため、その他の画像型式（jpeg,jpg,png,bmp）の画像オブジェクトとして配置してください。

2.6 バーコードオブジェクトの編集



バーコードオブジェクトをダブルクリックあるいはマウスの右クリック> プロパティを選択すると、プロパティウィンドウが表示され、バーコードタブを選択してバーコードオブジェクトの内容を変更することができます。

「種類」からバーコードの種類を選択し、「値表示」にチェックを入れるとバーコードの下部に値が表示されます。

バーコードオブジェクトを選択して、リボンバー> ホームタブ> フォントまたはオブジェクトプロパティ> Barcodeで種類を変更することも可能です。

※注意：バーコードと二次元バーコードは別のものです、例えばバーコードを作成し二次元バーコードに変更することはできません。

使用可能なバーコード種は以下のとおりです。

一次元バーコード

Code39 (1:2・1:3) 、Code39Ext (1:2・1:3)

EAN 8 (JAN 8) / EAN13 (JAN13)

ITF

Code128 (A,B,C)

Coda bar

2次元バーコード

PDF417・MicroPDF417

DataMatrix、QR Code、MAXI Code.

2.6.1 バーコードを枠にフィット

リボンバー> オプションタブ> 設定



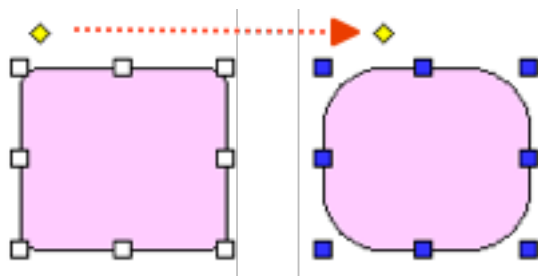
クリックしてONに設定すると、以後バーコード枠を設置した際、枠に合わせてバーコードの大きさが自動調整されます。設定後に作成する全てのバーコードオブジェクトに適用されますが、個々に設定を変更することができます。

2.7 図形オブジェクトの編集

オブジェクトの塗りつぶし、枠線の色、種類、太さの設定は他のオブジェクトと同様にリボンバーやオブジェクトをダブルクリックしてプロパティウインドウから設定することができます。

2.7.1 図形を変形する

角丸四角形：オブジェクトを選択すると左上に黄色い菱形マーク◇が表示されます、マウスでドラッグすると角丸の大きさを変更することができます。



2.7.2 線の長さ、角度を変える

オブジェクトを選択し、四角いハンドルをドラッグして線の伸縮、角度を変更します

2.8 レイアウト

2.8.1 複数のオブジェクトを選択する

リボンバー> 編集タブ> 選択> 全て選択をクリックすると全てのオブジェクトが選択されます。

一部のオブジェクトを選択するには他のオブジェクトにかからないように複数のオブジェクトの外側からマウスで囲むようにドラッグします。あるいはシフトキーを押しながらオブジェクトを一つずつ選択します。

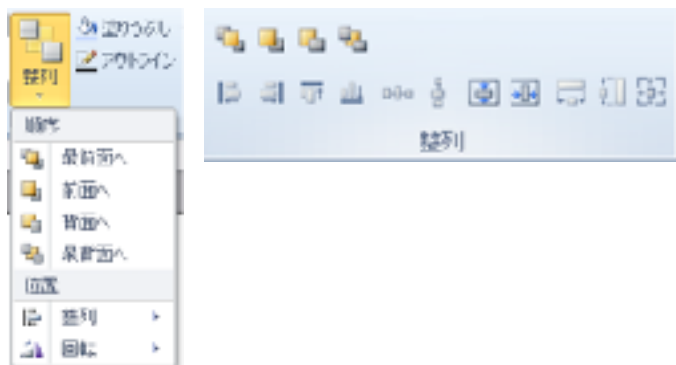
2.8.2 整列

2.8.2.1 オブジェクトの重なり順

オブジェクトは作成した順に重なって表示されます。

例えば、テキストの上に塗りつぶした図形を作成した場合はテキストが見えなくなります。

この場合、重ね順を変更することができます。



重なりを変更したいオブジェクト（上記の場合はテキスト）を選択してマウス右クリック、アレンジで次の操作をするか、アイコンで操作ができます。



最前面へ移動：オブジェクトを一番上へ移動します



前面へ移動：オブジェクトをひとつ上へ移動します



背面へ移動：オブジェクトをひとつ下へ移動します



最背面へ移動：オブジェクトを一番下へ移動します

重なり例：テキストの上に図形を配置してテキストが見えない状態

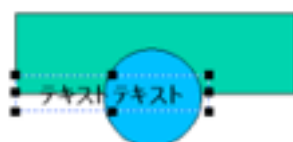
①テキストが最背面にある状態、 下からテキスト／四角／円の順



② テキストを前面（ひとつ上）へ移動した状態、下から四角／テキスト／円の順



③ テキストを最前面（一番上）へ移動した状態、下から四角／円／テキストの順



* ①の状態で四角形と円形を選択し、最背面へ移動しても③と同様

注意：③のように上に重なっているオブジェクトを下に移動することも可能ですが、背景画像編集を使用せずに、背景画像をデザインの背面に設定している場合はその画像の下に種々オブジェクト隠れてしまう場合があります。その場合は背景になっている画像オブジェクトを選択して最背面へ移動してください。

※背景を画像で設定する場合、リボンバー＞オプション＞背景編集で設定すると背景が固定されますのでこのようなことはありません。

同様の操作をリボンバー＞ホームタブ＞整列をクリック、または描画タブ＞整列のアイコンで操作することができます。

2.8.2.2 オブジェクトの整列

複数のオブジェクトを選択します、ドラッグで囲んで選択した場合は後に作成したものが基準になり、シフトキーを押しながら選択した場合は最初に選択したものが基準オブジェクトとなります。

基準となるオブジェクトのハンドルは青く、他のハンドルは白く表示されます



右寄せ：基準オブジェクトの右側に合わせて整列します



左寄せ：基準オブジェクトの左側に合わせて整列します



上寄せ：基準オブジェクトの上側に合わせて整列します



下寄せ：基準オブジェクトの下側に合わせて整列します

※オブジェクトの重なりに注意しましょう、例えば右寄せで同じ高さにある複数のオブジェクトを整列すると重なってしまいます。



横均等整列：選択した複数オブジェクトの両端に合わせて横方向の間隔を一定にします



縦均等整列：選択した複数オブジェクトの両端に合わせて縦方向の間隔を一定にします



横中央整列：選択した複数オブジェクト全体を横方向の中心に移動します



縦中央整列：選択した複数オブジェクト全体を縦方向の中心に移動します

2.8.2.3 オブジェクトの大きさを合わせる



幅を同じにする：選択した複数オブジェクトの幅を基準のオブジェクトに合わせます



高さを同じにする：選択した複数オブジェクトの高さを基準のオブジェクトに合わせます



大きさを同じにする：選択した複数オブジェクトのサイズを基準のオブジェクトのサイズに合わせます

<整列の使用例>

バラバラにならんだオブジェクトを整列する



整列したいオブジェクトをすべて選択して **横均等配列** をクリックすると、両端のオブジェクトの間隔内で各オブジェクト間隔が均等配置になります。

大きさも同じにしたい場合は、最初に大きさの基準としたいオブジェクトを選択し、シフトキーを押しながら他のオブジェクトを一つずつクリックして選択してから **大きさを同じにする** をクリックします。



上下方向も整列するには、更に上寄せ（または下寄せ）をクリックすると整列します。



さらに間隔を広げるにはどちらかの端のオブジェクトを広げたい位置まで移動しておき、全てを選択します

再度横均等配列 をクリックすると、両端のオブジェクトの間隔内で各オブジェクト間隔が均等配置になります。



2.9 インクパネル指定

デザイン上のそれぞれのオブジェクトをカラー印刷用インクパネル、またはブラック印刷用インクパネルに指定することができます。

2.9.1 インクパネル指定

オブジェクトを選択し、リボンバー＞ホームタブパネルで適用したいペンアイコンをクリックすると適用されます。
または画面右側のオブジェクトプロパティで設定します。



オブジェクトがどのパネルに設定されているかを確認するには、ペンの下の四角いパネルアイコンをクリックして該当パネルの表示（黄）／非表示を切替えます。

デザインで設定したインクパネルはプリンタと連動しますので、双方の設定が合致している必要があります。

デフォルトではオブジェクト作成時のインクパネル指定は下記のように設定されています。

ブラックパネル：テキスト、バーコード等

カラーパネル：図形、画像等

オーバーレイパネル：表面保護用のオーバーコート

蛍光パネル：紫外線で光るインクです（蛍光インクでのみ使用可）

デザイン上の注意

白色を指定した部分は印刷されず透過し、カードの白色を利用します。

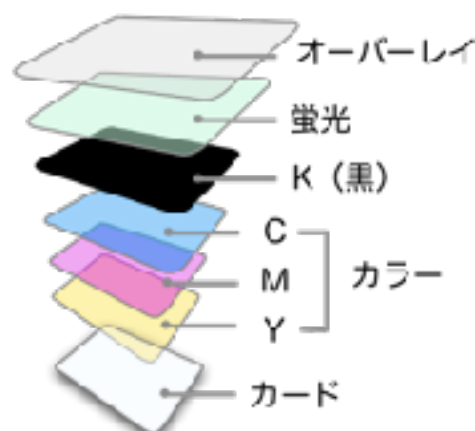
カラーとKを併用する場合、カラーパネル印刷部分の上にKパネルで白いデザイン部分を作成すると白い部分は印刷されず透明になります、背面にあるカラー印刷部分が透過して見える状態になりますのでご注意ください。この場合はカラーパネル上に透明部分を設けておくための白いオブジェクトを配置する必要があります。

2.9.2 オブジェクトのパネル指定方法

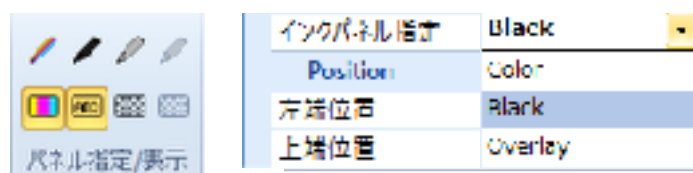
インクリボンのパネルは下図のとおり、下から順に重なって印刷されます。

例：YMCKFOリボンの場合

インクの印刷順



オブジェクトのパネル指定



上段のペンアイコン：オブジェクトをパネルに指定する場合に使用します。

オブジェクトを選択して設定したいペンアイコンをクリックするか、画面右側のオブジェクトプロパティのPanelの設定をColor, Black, Overlayから選択します。



カラーパネルに指定

カラーパネル（YMCKO, YMCKOK, YMCKFO, h YMCKOインクで利用可能）

Yイエロー・Mマゼンタ・Cシアンの三原色のインクを使用して昇華転写方式のカラー印刷をします。擦れ等に弱いため、カラー用のインクリボンには保護用のオーバーレイパネルが必ずついています。



ブラックパネルに指定

ブラックパネル（K, KO, その他Kを含むカラーインクリボンで利用可能）

文字やバーコードなどを印刷するリボンです。樹脂インクをカードに溶着するため、擦れ等に強い性質を持っています。

ゴールドなどの単色のインクリボンを使用する場合はブラックパネルと同様に扱われます。



オーバーレイパネルに指定

オーバーレイパネル（KO、YMCKO, YMCKOKインクで利用可能）

オーバーレイはUVや擦れなどからカード表面を保護するためのインクリボンです。



蛍光パネルに指定

蛍光インクパネル（YMCKFOインクで利用可能）

蛍光パネルはブラックライトなどの紫外線に反応して光るインクパネルです。また、紫外線から印刷を保護することができます。

2.9.3 パネル表示／非表示

下段のアイコン：設定されたオブジェクトを表示／非表示にします、アイコンが黄色い状態は表示、クリックすると無効になり該当するオブジェクトは画面に表示されません。



カラーパネルのオブジェクトを表示／非表示



Kパネルのオブジェクトを表示／非表示



オーバーレイパネルのオブジェクトを表示／非表示



蛍光パネルのオブジェクトを表示／非表示

2.9.4 オーバーレイ、蛍光パネル反転



オーバーレイ反転

オーバーレイのオブジェクトを反転します

使用時はオレンジ色のアイコンになります

反転機能を利用して擬似的な透かしを印刷することが出来ます。文字や図形をオーバーレイパネルに指定してオーバーレイ反転ボタンをクリックすると該当部分だけが印刷されず、印刷されたカードを反射させて見ると文字等がくっきり見えます。

※ご注意：透かし部分はオーバーレイが印刷されません。透かし部分の下にカラー印刷部分がある場合、擦れや紫外線に弱く劣化しやすいため、カード白地の部分に透かしを配置して下さい。



蛍光パネル反転

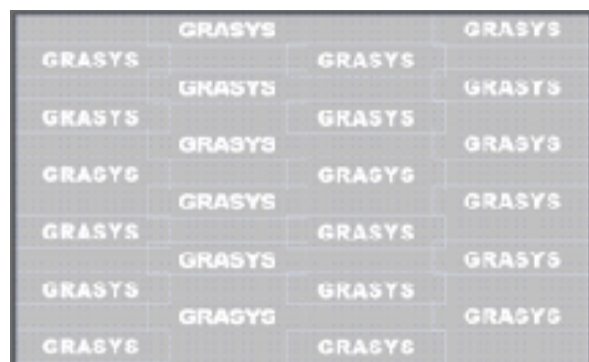
オーバーレイ反転と同様です。蛍光パネルのオブジェクトを反転します

使用時はオレンジ色のアイコンになります

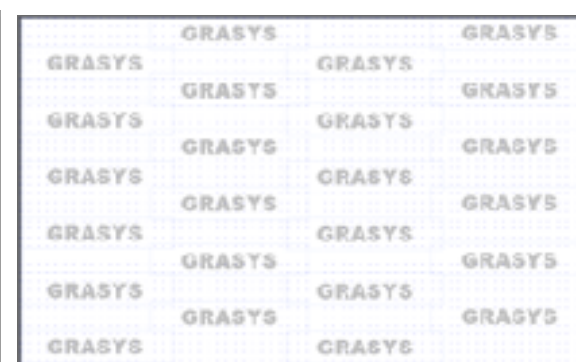
印刷された部分は紫外線ライトで光るため、簡易的な真贋確認用に使することが出来ます。蛍光パネルの印刷後に保護用のオーバーレイが印刷されますので、カード全面に配置しても問題ありません。反転機能を利用するとオブジェクトだけを印刷することが出来、紫外線でオブジェクトが光ります。

* 全面に蛍光パネルを印刷すると紫外線を弱める効果があります。

反転前（文字以外が印刷）



反転後（文字だけが印刷）



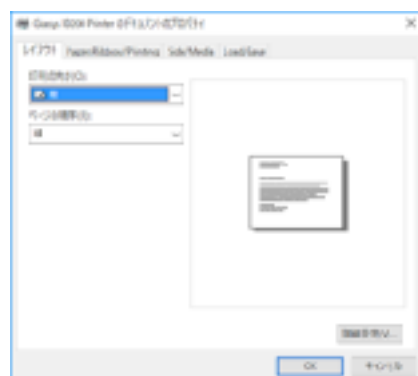
2.9.5 インクリボンの設定

例えばプリンターの設定にブラック（K）リボンが設定されている場合、カラーパネルを使用することができません。

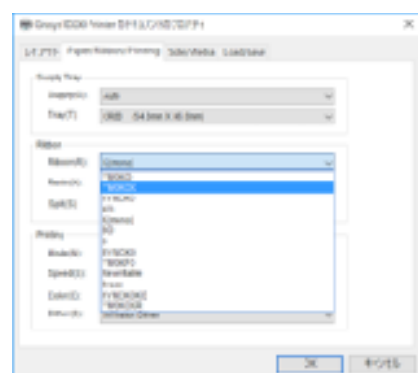
GRASYS IDカードプリンタはインクリボンを自動的に認識しますが、プリンタの未接続時やデザインを先に作成しておきたいが該当するインクリボンが無い場合などは、リボンバー>ファイルタブ>プリンタ設定を選択してプリンタの設定画面からプロパティで設定を変更します。



プロパティをクリックします



Paper/Ribbon/Printingタブを選択します



中段のRibbon部分のRibbonを設定します。

リボンの種類

片/両面用：YMCKO：フルカラー（※Split設定で両面对応可）

両面専用：YMCKOK：片面フルカラー/片面ブラック

片/両面用：hYMCKO：半面フルカラー

片/両面用：KO：ブラック+オーバーレイ

片/両面用：K(mono)：ブラック 単色インクリボンはK（mono）と同様です。

片/両面用：YMCKFKO：フルカラー、蛍光パネル付き

※Split設定：両面機のみ対応しています。

表面にテキストが無く画像だけで、裏面がテキストだけの場合などに表面をYMCのカラー部分のみで印刷し、Kを裏面印刷に使用する設定です。この場合、表面にテキストやバーコードなどの設定されているとカラーで黒を表現するため完全な黒で表現することはできません。

※リボンと残量：Kリボンのみ残量表示は不正です。

カラーリボン、KOリボンなどはカード1枚分のリボンごとに分かれています、Kや他の単色リボンは分かれています。これは部分印刷モード（パースナルモード）に対応しているため、例えば印字幅が1/3の場合にリボンも1/3程度しか消費しないためカード1枚分としてカウントできないためです。目視のリボン残量、カード発行数を目安にしてください。

2.10 オブジェクトプロパティ

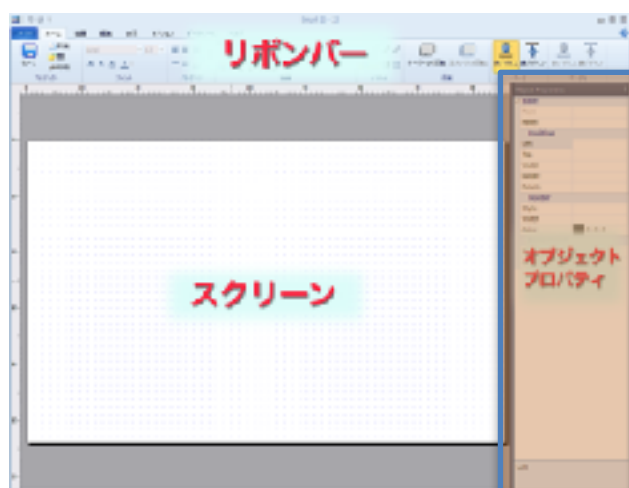
オブジェクトを選択すると、画面右側のオブジェクトプロパティに各オブジェクトで設定可能な項目が表示されます。

2.10.1 基本項目

図形および各オブジェクト共通の項目が表示されます。

2.10.2 拡張

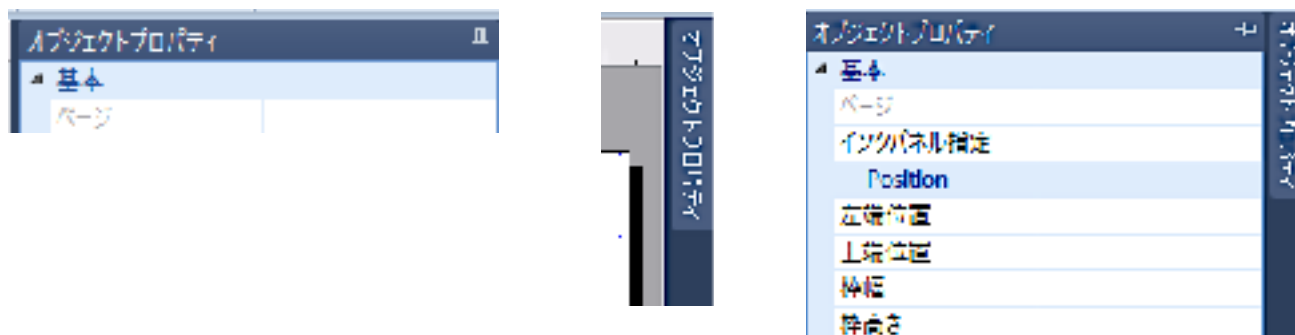
各オブジェクト用の項目が表示されます。



2.10.3 オブジェクトプロパティ画面

オブジェクトプロパティ画面上部のピンアイコンをクリックすると、画面右端にタブとして表示することができます。

タブをクリックするとオブジェクトプロパティ画面が表示され、再度タブをクリックすると小さくなりますのでデザイン画面を大きく使用したい場合に便利です。



オブジェクトプロパティの表示内容

基本（各オブジェクト共通）	
ページ	Front（オモテ） / Back（ウラ）
インクパネル指定	Color/ Black/ Overlay
Position	（オブジェクトの位置）
左端位置	左端の座標
上端位置	上端の座標
枠幅	オブジェクトの枠の幅
枠高さ	オブジェクトの枠の高さ
回転	0/90/180/270度
Border	（枠線）
種類	No Border(無し)、その他種類選択
太さ	1 ピクセルから
色	選択

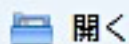
拡張：テキストの場合	
Inner Space	(文字枠内のスペース)
枠内左スペース	テキスト枠内の左側スペース
枠内上スペース	テキスト枠内の上側スペース
枠内右スペース	テキスト枠内の右側スペース
枠内下スペース	テキスト枠内の下側スペース
Alien	(文字枠内の配置)
横配置	左寄せ、中央寄せ、右寄せ、均等配置
縦配置	上寄せ、中央寄せ、下寄せ
Option	(オプション)
自動サイズ	No Option (使用しない) / Auto fit (自動調整) : 大きさを枠に合わせて自動調整
Font	(フォント)
フォント	フォント種と大きさ
色	フォント色
Data	(データ)
文字列	入力した文字列
フィールド	入力フィールドの設定がある場合に選択して適用可能
拡張：バーコードの場合	
Barcode	(バーコード)
種類	種類選択 (1Dと2Dの切替はできません)
大きさ	自動サイズが有効な場合は使用できません
色	バーコードの色、黒以外は要スキャンテスト
Parameter	(パラメータ)
パラメータ 1	一部バーコードで使用
パラメータ 2	一部バーコードで使用
Option	(オプション)
値を表示	バーコード下に値を表示
自動サイズ	枠のサイズに自動フィット
スタートコード	Codabarで使用
ストップコード	Codabarで使用
Data	(データ)
データ	入力されたデータを表示
Zip Code	PDF417で使用
フィールド	入力フィールドの設定がある場合に選択して適用可能

拡張：画像の場合	
Size	(サイズ)
オリジナル高さ	元画像の高さ（ピクセル）
オリジナル幅	元画像の幅（ピクセル）
Effect	(効果)
自動補正	False(しない)/True(コントラストと明るさを自動調整)
コントラスト	0%から100%まで
明るさ	0%から100%まで
不透明	100%から0%まで
カラーモード	カラー/グレースケール
Zoom&Position	(ズームと位置)
自動ポートレート	False(しない)、True（する）
幅ズーム	0%から
高さズーム	0%から
横配置方向	左寄せ、中央寄せ、右寄せ、未指定
縦配置方向	上寄せ、中央寄せ、下寄せ、未指定
枠内左オフセット	枠内の左側オフセット位置（ピクセル）
枠内下オフセット	枠内の下側オフセット位置（ピクセル）
Etc.	(その他)
角丸設定	0から100（最大）
フィールド	入力フィールドの設定がある場合に選択して適用可能

3 ファイル操作

リボンバー＞ファイルタブ

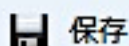
3.1 デザインファイルを開く



既存のデザインファイル(.csd)を選んで開くボタンをクリックします。

※デザインファイルの拡張子は.csdです。

3.2 ファイルを保存する

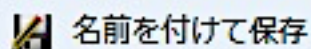


プロジェクトを保存します、プロジェクトを作成せずデザインだけを作成した場合もセーブをクリックするとプロジェクト名、保存場所を指定してプロジェクトとして保存されます。

開いたプロジェクトを上書きして保存します。

デザインだけを保存したい場合は名前を付けて保存を使用して下さい

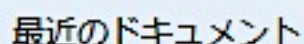
3.3 名前を付けて保存



保存場所を選択しファイル名を入力して、保存ボタンをクリックします。

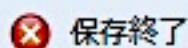
プロジェクトを作成せずに保存する場合、デザインだけが保存されます。ファイルの拡張子は.csdです。

3.3 最近使用したファイルを開く



最近のドキュメントを選択すると、最近使用したcsdファイルと場所の一覧が表示されます。クリックして選択することが出来ます。

3.4 プログラムの終了



保存して終了します。

内容を変更した場合は保存して終了するか、確認画面が表示されます。保存したい場合ははい、しない場合はいいえ、終了を取りやめる場合はキャンセルを選択してください。

4 印刷

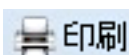
4.1 印刷プレビュー

リボンバー> ファイルタブを選択すると画面に印刷のプレビューイメージが表示されます、印刷前にイメージを確認することが出来ます。

プレビューを保存ボタンをクリックすると印刷イメージを1012 x 636ピクセルのビットマップ画像として保存することが出来ます。



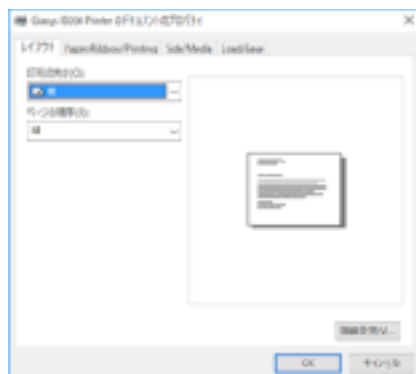
4.2 印刷



印刷

現在のドキュメントを印刷する

はじめに、プリンターの電源が入っており、印刷するカードとデザインと適合するリボンが装着されていることを確認してください。

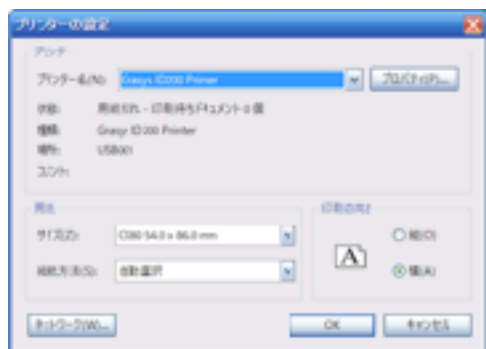


印刷はリボンバー> ホームタブの印刷をクリックする、またはファイルタブ> 印刷> 印刷ボタンをクリックする、あるいはホームタブ> プリンターアイコンをクリックすると可能です。

印刷ウィンドウが表示されますのでGrasys ID プリンターを選択してください。

印刷部数に枚数を設定してOKボタンをクリックすると印刷を開始します。

本ソフトではGRASYS IDプリンタのみを使用することが出来ます。



4.3 印刷できない場合

デザインソフトに「印刷するファイルの設定とプリンターの設定が異なるため印刷できません。」と表示される場合、デザインでインクパネル設定したものと異なるインクリボンがプリンターに装着されている可能性があります。

<プリンタ設定を確認>

リボンバー> ファイルタブ> プリンタ設定を選択し、プリンタの設定画面からプロパティで確認します。

- ・プリンタに装着されているインクリボンとプリンタ設定で設定したインクリボンは合致しているか？
- ・ID130,150の片面プリンタで両面印刷設定（Both）になっている
- ・デバイスとプリンタでプリンタの印刷設定も確認してください

<デザインを確認>

- ・ID130,150の片面プリンタに両面デザインでプリントしている
- ・カラーパネル指定を含むデザインをKリボン（ブラック）で印刷している

<プリンタエラー>

プリンターエラーが発生する場合はユーザーマニュアルを参照してください

ID130：前面のLEDが点滅

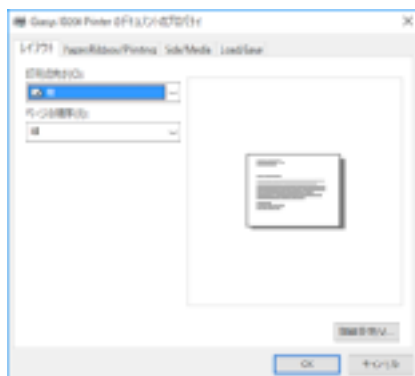
ID150,150W：前面の液晶にエラーが表示される

4.4 その他の印刷設定

4.4.1 「レイアウト」タブ

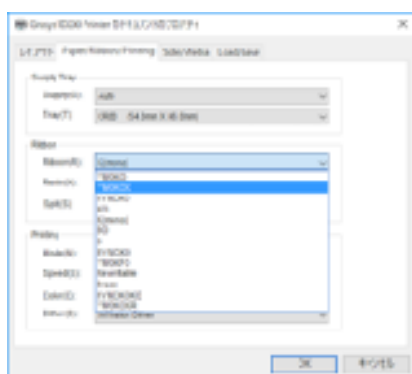
印刷の向きを「縦」と「横」から選択できますが、印刷の向きを変えると、印刷範囲からデザインがはみ出ることがあります。プリンタドライバのプロパティで変更して下さい。「詳細設定」をクリックすると詳細を設定できますが、印刷エラーを引き起こす可能性があります。デフォルト値を推奨します。

詳細設定は8以降に記載されています。



4.4.2 「Paper/Ribbon/Printing」 タブ

カードの補給方法、使用するリボンの設定、印刷モードを設定できます。



Supply/Tray : 設定変更する必要はありません。

Supply : Auto / Card Hopper

CR80 : 54mm x 86mm

Ribbon

インクリボンの種類を設定できます。

Resin

自動設定されますので変更の必要はありません。

当ソフトウェアを使用しない場合はレジニンクの印刷設定をします。

Black Object : 印刷データに黒い図形やテキストなどを抽出した場合、Kパネルを使用します

Black Text : 印刷データに黒いテキストを抽出した場合、Kパネルを使用します

Black Dot : 印刷データに黒いドットを抽出した場合、Kパネルを使用します

Not Use : 使用しません

Split

(H)YMCKOリボンで両面印刷の場合にのみ有効

Split for Backside : 表面が画像だけの場合などにYMCOのみで印刷し、Kを裏面印刷に使用する設定

Printing

Mode : Partial:単色リボン用部分印刷モード、印刷領域のみにリボンを使用し、若干高速になります。

Speed : K、KOリボンのみで使用可能な印刷速度の設定。Highの場合、印刷品質が多少落ちます。

Color : 白黒／カラー印刷を選択します。K、KOリボンでカラーは選択できません。

Dither : K、KOリボンのみに設定可能な画像の誤差拡散法（ディザリング）を選択できます。

Threshold : スレッシュド法

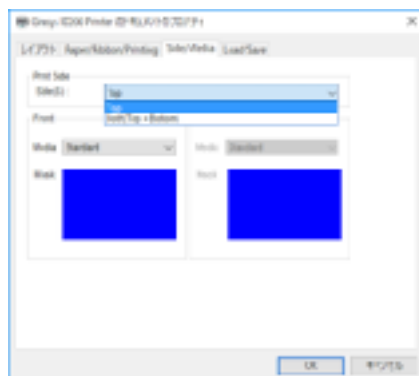
Random Dither : ランダムディザ法

推奨設定 * Diffusion Dither : ディフュージョンディザ法

4.4.3 「Side/Media」 タブ

片面印刷／両面印刷の指定やオーバーレイを使用する場合のマスク設定を行います。

例えばICカードのICチップがある部分にはオーバーレイを印刷しないようマスク設定を行ないます。



Print Side ※両面印刷はID150W、ID150Lでのみ可能

片面印刷(Front)と両面印刷(Both (Front + Back))から選択できます。

Media : 印刷するカードの種類に合わせて、オーバーレイのマスクを設定します。

Standard : 全面にオーバーレイを印刷。

Smart Card : スマートカード表面のIC チップ領域には印刷しない。

Smart Card [Right Only] : スマートカード右側、チップの右側だけに印刷。

ISO MS : ISO 磁気ストライプカード用、ISO磁気ストライプ部以外にオーバーレイを印刷。

JIS MS : JIS 磁気ストライプカード用、JIS磁気ストライプ部以外にオーバーレイを印刷。

Smart Card + JIS MS : IC+ JIS 磁気ストライプカード用、ICとJIS磁気ストライプ部以外に印刷。

User Defined Card : 印刷範囲を設定したビットマップ画像を用いてユーザー設定を適用。

Edge : カードに余白を設定します。Not Use:余白設定・ Use:約2ミリの余白を印刷。

User Defined Cardではオリジナルのマスク画像を作成し、登録することが出来ます

マスク用の画像はビットマップファイルで作成します

画像サイズ : 1012 X 636 ピクセル

プリント・オーバーレイ用 : ブルー、RGB0,0,255

オーバーレイのみ : スカイブルー RGB0,255,255

プリントのみ : ピンク RGB255,0,255

蛍光パネルのみ : 黄色 RGB255,255,0

4.5 画像モードとインクリボンの関係

画像を印刷する場合は画像の種類と使用するインクパネルに注意して下さい。

・カラーやグレースケールなどの階調表現が含まれる画像を印刷する場合はカラーリボンを使用します。

ブラック (K) リボンを使用して印刷すると画像の階調やグラデーションを表現出来ません。

・文字が入った画像の場合

文字の画像にはグラデーションが存在します、Kリボンを使用するとディザリングされ粗く印刷されますのでご注意下さい。

Kリボンを使用する場合、文字はテキストオブジェクトとして入力して下さい。

4.5.1 画像表現の例

カラー印字：フルカラー画像



拡大画像比較

カラー画像

カラー画像はカラーパネルを指定して印刷します。

* デフォルト設定で画像はカラーパネルに指定されます。



グレースケール画像（白黒画像）

白黒画像をカラーパネルに指定して印刷すると階調を表現できる白黒写真として表現されます。

* * デフォルト設定で画像はカラーパネルに指定されます。



二値画像

カラーまたはグレースケール画像をKパネル（黒）に指定した場合、

Kパネル（黒）に指定された画像は中間調のない黒・白の2階調で表現される二値画像になり、画像はディザリング（拡散誤差法）を用いて表現されます。この画像は白か黒のみで構成されるため、中間のグラデーションを表現できません。

* デフォルト設定で画像はカラーパネルに指定されますが、パネルに指定した場合や印刷時にプリンタのインクリボンがKのみだった場合には注意喚起画面が表示され、Kパネルに適用されます。



5 データベースとの連動

5.1 データ連動用入力フィールドの作成

Grasys ID Design で作成したデザインのテキスト、バーコード、画像オブジェクトを入力フィールドとして設定するとGrasys IDDBと連動して差し込みデータ印刷が可能です。

5.1.1 入力フィールドの設定

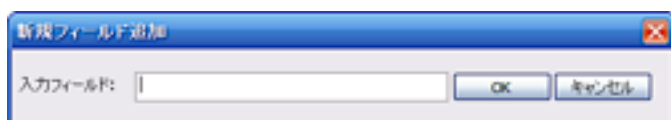
使用したいカードデザインを作成または開きます。

入力フィールドにはテキストの他、バーコードと画像オブジェクトも設定することが出来ます。

ここではテキストオブジェクトについて記載します



配置したテキスト（バーコードオブジェクト、画像オブジェクトも可）を選択し、マウス右クリックで入力フィールド＞新規フィールドを選択すると、新規フィールド追加画面が表示されますので入力フィールド名を入力すると項目が登録されます。



入力フィールドの追加の都度、データベースにも項目が追加されます。データベースタブを開くとデザインに設定した入力フィールド項目が反映されていることを確認できます。

5.1.2 テーブル名、入力フィールド名で使用出来ない文字等

下記の文字、文字列は使用しないで下さい、データベースで予期しないエラーが発生する場合があります。

文字

スペース		角かっこ	[または]
二重引用符	"	アスタリスク	*
アポストロフィ	'	ドル記号	\$
アクセント記号	`	セミコロン	;
番号記号	#	コロン	:
パーセント記号	%	疑問符	?

不等号 (より大)	>	キャレット	^
不等号 (より小)	<	中かっこ	(または)
感嘆符	!	正符号	+
ピリオド	.	バックスラッシュ	\

文字列

-A	ADD	-M	Macro
	ALL		Match
	Alphanumeric		Max、Min、Mod
	ALTER		MEMO
	AND		Module
	ANY		MONEY
	Application		Move
	AS	-N	NAME
	ASC		NewPassword
	Assistant		NO
	AUTOINCREMENT		Not
	Avg		Note
-B	BETWEEN		NULL
	BINARY		NUMBER、NUMERIC
	BIT	-O	Object
	BOOLEAN		OLEOBJECT
-B	BY	-O	OFF
	BYTE		ON
-C	CHAR, CHARACTER		OpenRecordset
	COLUMN		OPTION
	CompactDatabase		OR
	CONSTRAINT		ORDER
	Container		Orientation
	Count		Outer
	COUNTER		OWNERACCESS
	CREATE	-P	Parameter
	CreateDatabase		PARAMETERS
	CreateField		Partial
	CreateGroup		PERCENT
	CreateIndex		PIVOT

	CreateObject		PRIMARY
	CreateProperty		PROCEDURE
	CreateRelation		Property
	CreateTableDef	-Q	Queries
	CreateUser		Query
	CreateWorkspace		Quit
	CURRENCY	-R	REAL
	CurrentUser		Recalc
-D	DATABASE		Recordset
	DATE		REFERENCES
	DATETIME		Refresh
	Del		RefreshLink
	DESC		RegisterDatabase
	Description		Relation
	DISALLOW		Repaint
	DISTINCT		RepairDatabase
	DISTINCTROW		Report
-D	Document	-R	Reports
	DOUBLE		Requery
	DROP		RIGHT
-E	Echo	-S	SCREEN
	Else		SECTION
	End		SELECT
	Eqv		SET
	Error		SetFocus
	EXISTS		SetOption
	Exit		SHORT
-F	FALSE		SINGLE
	Field、Fields		SMALLINT
	FillCache		SOME
	FLOAT、FLOAT4、FLOAT8		SQL
	FOREIGN		StDev、StDevP
	Form、Forms		STRING
	FROM		Sum
	Full	-T	TABLE
	FUNCTION		TableDef、TableDefs

-G	GENERAL		TableID
	GetObject		TEXT
	GetOption		TIME、TIMESTAMP
	GotoPage		TOP
	GROUP		TRANSFORM
	GROUP BY		TRUE
	GUID		Type
-H	HAVING	-U	UNION
-I	Idle		UNIQUE
	IEEEDOUBLE、IEEESINGLE		UPDATE
	If		USER
	IGNORE	-V	VALUE
-I	Imp	-V	VALUES
	IN		Var、VarP
	INDEX		VARBINARY、VARCHAR
	Index、Indexes		VERSION
	INNER	-W	WHERE
	INSERT		WITH
	InsertText		Workspace
	INT、INTEGER、INTEGER1、INTEGER2、 INTEGER4	-X	Xor
	INTO	-Y	Year
	IS		YES
-J	JOIN		YESNO
-K	KEY		
-L	LastModified		
	LEFT		
	Level		
	Like		
	LOGICAL、LOGICAL1		
	LONG、LONGBINARY、LONGTEXT		

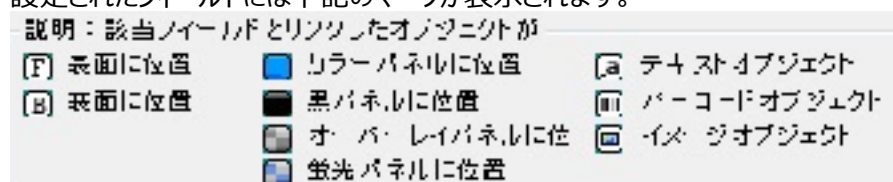
5.1.3 入力フィールドの確認

項目を選択してマウス右クリック> 入力フィールド> ダイアログ表示、またはリボンバー> オプションタブ> 入力設定をクリックすると入力フィールド設定画面が表示され、設定内容の確認と編集が可能です。

画面のフィールド欄にフィールド名が表示されていますのでマウスでダブルクリックすると編集可能な状態になります。続けて設定を追加したい場合は繰り返します。



設定されたフィールドには下記のマークが表示されます。



5.2 基本値（デフォルト表示値）の設定

フィールド名の右側の基本値の欄をダブルクリックすると基本値（デフォルト表示値）を設定することが出来ます、基本値を入力しておく、データ連動前にデザインのテスト印刷などで項目が表示・印刷されますので内容を把握しやすくなります。

※オブジェクトが画像の場合は基本値を設定する前に入力フィールドを連結します。フィールド連結後に基本値の空欄部分をダブルクリックすると右端に「…」アイコンが表示されますのでクリックし、デフォルトで表示したい画像を選択します。

5.3 フィールドの編集、解除

編集や解除したい場合は上記と同様に右クリックし「フィールド編集」を選択するか、フィールド上をダブルクリックすると直接編集することができます。



6 磁気ストライプエンコード (ISO/JIS)

オプションの磁気エンコーダを搭載するとGRASYSプリンターで磁気ストライプ付きのカードの印刷とともに磁気ストライプに情報を書き込むことができます。

データベースと連動し、入力フィールドに差し込みされる値を利用して磁気エンコードをすることも可能です。※英数字、半角カナのみエンコードすることが出来ます。

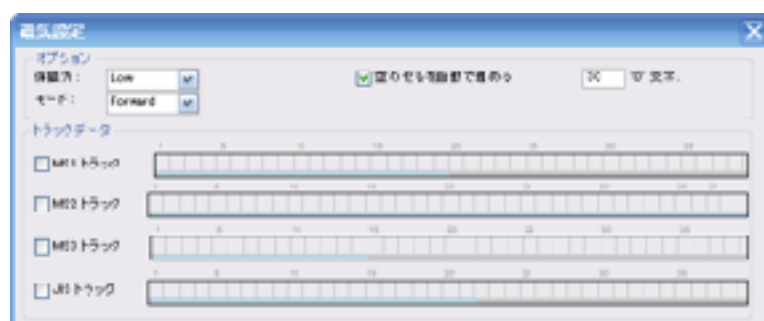
※磁気エンコードのみを行うことも可能です

6.1 磁気設定ウィンドウ

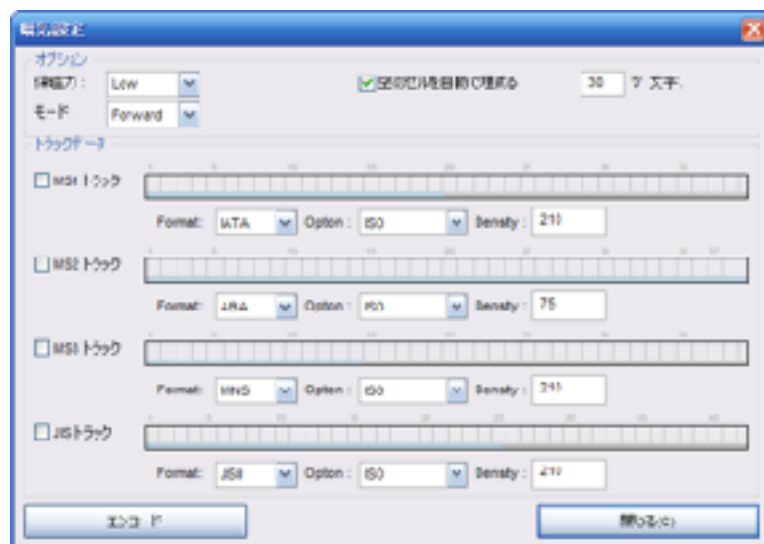
リボンバー> ホームタブ> オプション> 磁気データ設定をクリックし、磁気設定ウィンドウを開きます

磁気設定画面はID200接続時のみ画面が異なります。

ID130、ID150接続時の設定画面

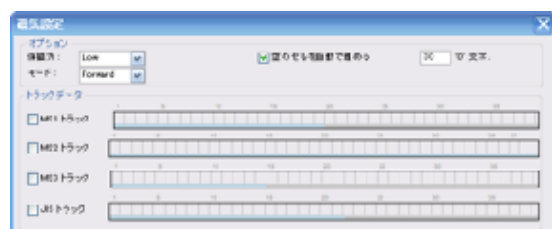


ID200接続時の設定画面



トラックごとにオプションの設定項目があります

6.2 オプションの設定



保磁力

使用するカードの磁気ストライプに併せて設定します。JIS2の場合、通常はLowを選択します

Low : LoCoカード

High : HiCoカード

モード

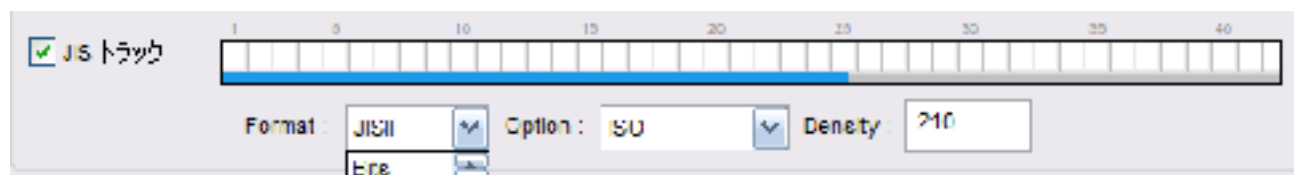
磁気データの書き込み方向または書き込み方法を設定します。

Foward : 正方向 (カード挿入方向順に記録します)

Backward : 逆方向 (カード挿入と逆順に記録します)

Bitmode : 「Bit Mode」では、16進数でデータを入力し、エンコードします。

ID200接続時のトラックごとオプション設定



Format : JIS2・Bits (ビットモード)

Option : ISO・ISO Basllys2・ISO Ballys 3

Density : 任意

* JIS2を使用する場合はJISトラックにチェック、Format : JIS II、Option : ISO、Density : 210です。

6.2.1 空のセルを自動で埋める

磁気トラックに空白が発生する場合、その空白を埋めるかどうか指定することができます。チェックボックスが有効になっている場合は空白部分を指定した文字で埋めます。

空白を埋める文字は右側の入力欄で下記数値を入力して指定することができます。

30を入力 : 0 20を入力 : スペース 31を入力 : 1

6.3.3 使用するトラックの選択

JIS 2 の場合 : JISトラックをチェックすると使用することができます。

ISO 7811/JIS1のトラック 1、2、3 または JIS 2にデータを書き込むことができます。

MS1～3 : ISO 7811/JIS 1用

JISトラック : JIS2用

使用するカードの仕様に合わせて選択します、使用しないトラックはチェックしないでください。

例 : JIS2 LoCoカードをNormalで書き込む設定

JIS2で書き込み可能な文字数と文字列

文字数 : 最大72文字、ただしシステム用に3文字を使用するため、実質は69文字です。

半角カナなど、日本語を使用すると、制御コードが必要なため使用可能な文字数は少なくなります。

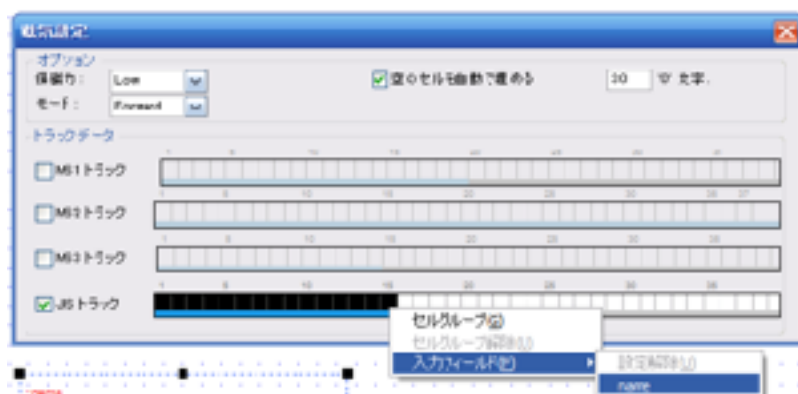
文字列 : 半角英数、半角カナ、全角カナ、全角

* 全角文字列は文字数が固定でない場合、次項目のバイト位置が変化します。

白いセルは、データ入力可能な状態で黒いセルは選択した状態です。下部の青いバーは横方向のスクロールバーです。キーボードを使用してセルに直接文字列を入力することができます。

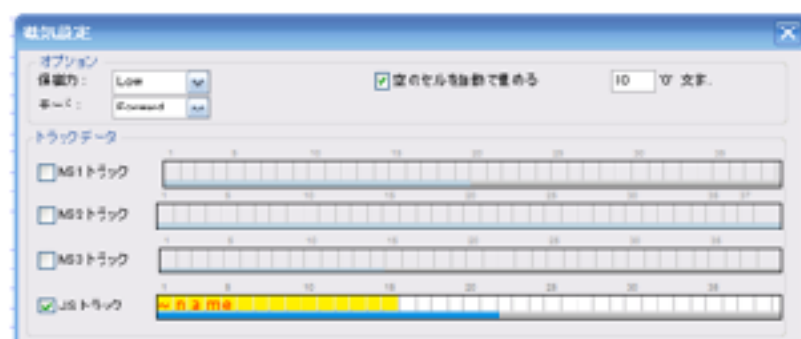
6.3.4 データベースのデータを磁気へ書き込む

デザインに設定した入力フィールドと連動してデータベースのデータを磁気へ書き込むことができます。



使用するトラックで入力範囲のセルを選択します、使用する入力フィールドに入る最大の文字数までドラッグして黒く反転させ、そのまま右クリックで「入力フィールド」から設定済みの入力フィールドを選択します。設定後は該当セルが黄色くなります。

＊ 設定したフィールドを解除するには設定済のセルをマウスで選択し、右クリック>「設定解除」を選択します。



磁気の手入はプリンターの下側から行なわれますので、磁気カードをホッパーにセットする際は磁気ストライプ面がエンコーダに接触するように下面かつ右側になるようにセットします。

6.3.5 カードデザインの印刷と磁気エンコード

ID130、ID150磁気エンコーダオプション付きの場合、オモテ面への印刷と磁気エンコードが同時に行えますが、磁気面に印刷が必要な場合は別途印刷が必要です。（※注意事項など、印刷内容が固定されている場合は、あらかじめ、まとめて磁気面へ事前印刷しておくことで運用が効率化されます）ID130、ID150両面印刷機の場合は表面の印刷、磁気エンコード、磁気面への印刷が一度の印刷で可能です。

ID200は片面機でもオモテ面の磁気エンコードが可能です、磁気エンコーダオプション発注の際にお申し出ください

ID130、150片面機で磁気エンコードを行う場合、裏面磁気ストライプのみに対応しています。プリンタの印刷設定でMagnetic Card Flip R/WがFlip Modelになっているか確認してください。Normalに設定されている場合、磁気エンコード後にカードを反転出来ず、カードが停止してエラーが発生します。

プリンタドライバの設定は片面機と両面機の場合で変化します。本マニュアルの13、14を確認して下さい

ドライバの設定：ID130W、ID150W、ID150Lの場合のMagnetic Card Flip R/Wモード

Normalモード（両面機のみで使用可能）

ISO：磁気エンコーディング後に印刷

JIS：磁気エンコーディング後に回転、その後印刷：磁気面（裏面）が表面になる

Flipモード

ISO：磁気エンコーディング後に回転、その後印刷

JIS：磁気エンコーディング後に印刷：磁気面は裏面になる

＊ ISOとJISでオモテ面の扱いが異なりますので設定は逆になります。

その他 インストールCD内のUtilityフォルダ、CardPrinterTest.exeを使用して読み取りテストができます。

7 データベースの操作

デザイン画面で入力フィールドを追加／削除すると、その都度ソフトウェア内部のデータベースに反映されます、リボンバー＞データベースタブをクリックするとリストに設定済みのフィールドが表示されます。

リボンバー＞データベースタブ＞設定＞フィールド設定をクリックするとフィールドリスト管理画面が表示され、デザインの入力フィールド名とデータベースの項目の組み合わせを変更することができます。

CSD：デザインに設定した入力フィールド名／DB：データベースの項目名



7.1 データの操作

差し込み印刷用のデータはひとつずつ入力することも出来ませんが、MDBファイルやエクセルファイルのデータを取込むことができます。

* エクセルファイルはxls形式のみ使用可能ですのでご注意ください

インポート時（取込み）にデータベースの項目と取込みデータの項目を設定する必要がありますので、元データの項目名はデザインに設定した入力フィールド名と同じ項目名を使用することをお勧めします。

7.2 データの追加、修正

データを追加するには、[データベース]タブ > データ> "追加"ボタンをクリックします。



データを追加画面

No.	Name	Type	Value	SEQ
1	氏名	String		SEQ
2	番号	String		SEQ
3	QRコード	String		SEQ
4	顔写真	String		SEQ
5	PRINTMARK	String		
6	PRINTINFO	String		

各項目の"Value"にデータを入力します。薄黄色の項目はソフトウェアが使用しますので入力しないで下さい。画像フィールドを使用するときは、"..."ボタンをクリックするとエクスプローラ画面が開きますので、該当の画像を選択して下さい。画像を変更したい場合は、画像をダブルクリックするか"..."ボタンをクリックします。

No.	Name	Type	Value	SEQ
1	氏名	String		SEQ
2	番号	String		SEQ
3	QRコード	String		SEQ
4	顔写真	String	[Photo]	
5	PRINTMARK	String		
6	PRINTINFO	String		
7	PRINT_CONFIG	String		

キャプチャボタン：USBカメラからの画像取込

USBカメラがPCに接続されている場合、画像項目を選択した場合に右側の"キャプチャ"ボタンが有効になります。キャプチャボタンをクリックするとキャプチャ用の画面にUSBカメラの映像が表示され、キャプチャボタンをクリックすると撮影データが登録されます。（一部のカメラではカメラ側のシャッターに対応しています）

※カメラ付のノートPCの場合

USBカメラを接続してID DBを起動、キャプチャーを確認します。内蔵カメラだけが認識される場合は、USBカメラを一旦取り外してコントロールパネル > デバイスマネージャーを起動します。イメージングデバイスに表示されている

USBWebCamを選択し、右クリック > 無効を選択します。設定完了後、USBにカメラを再度接続してお試し下さい。

印刷して続行ボタン：入力の都度、印刷をおこなうことができます。

プリンタを選択し、"印刷"ボタンをクリックしてください。その後、印刷が開始されます。印刷後、プレビューが自動的に閉じられ、印字内容のデータが自動的にデータベースに追加されます。

データ入力後、"保存して閉じる" または"保存して続行" をクリックするとデータが保存されます。

保存して続行ボタン：データを保存し作業を続けます、直前の編集内容が残りますので同じ内容の部分などはそのまま利用し必要な部分のみを上書き入力します。

保存して閉じるボタン：データを保存し追加画面を閉じます。

一括保存ボタン：

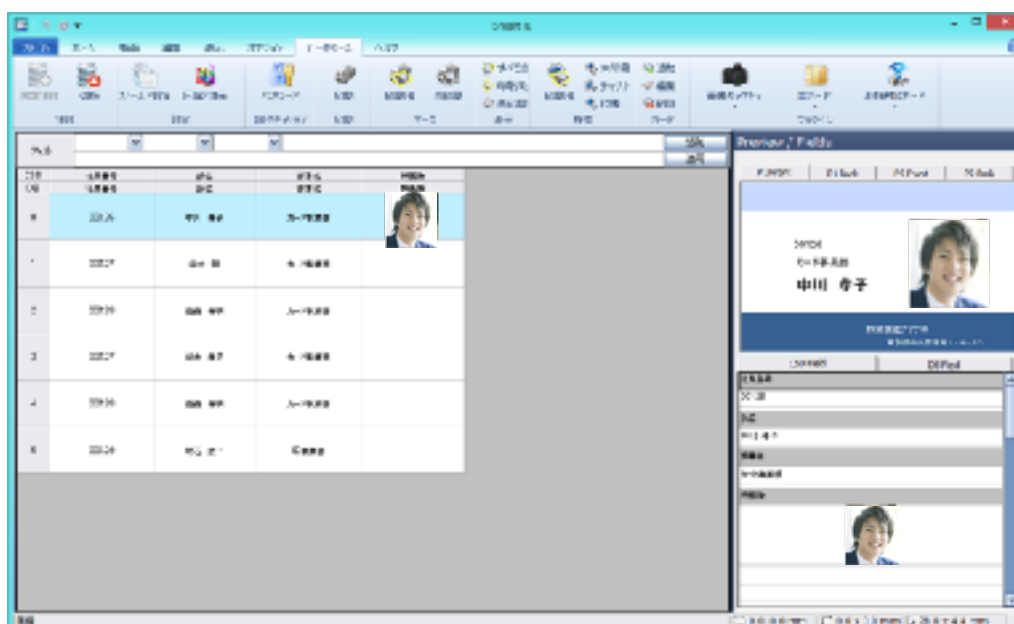
内容のクリア：入力した内容を消去します。

閉じる：ウインドウを閉じます。

カードを追加した場合、新しいデータは、図9のような画面上で更新されます。選択されたデータは、データフィールドを介して更新され データベース画面右上のプレビューセクションに表示されます。

画像データ追加後

ID	氏名	部署	性別	写真
1	山田 太郎	営業部	男	



7.3 データの編集

データを編集する方法は二つあります。

- 編集したい行を選択し、データ> “追加”ボタンをクリックします “編集”ボタンを選択する



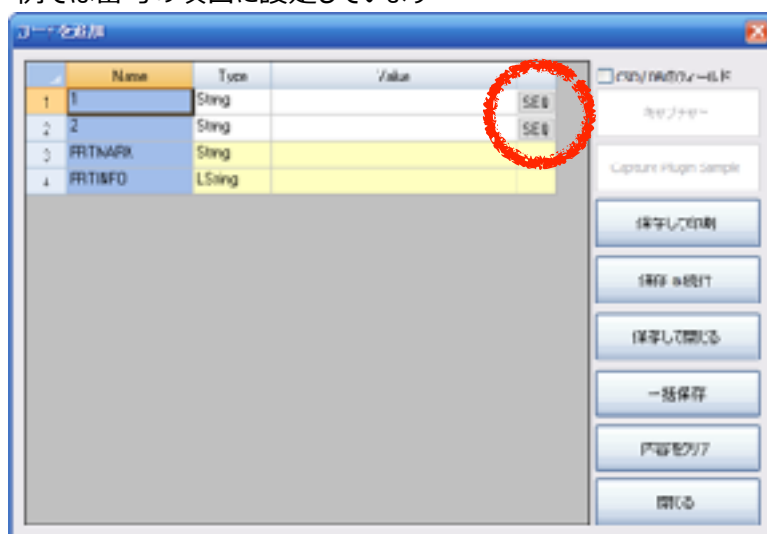
- 画面上の編集したい項目をダブルクリックして直接編集します

シーケンス番号（連番）を入力する

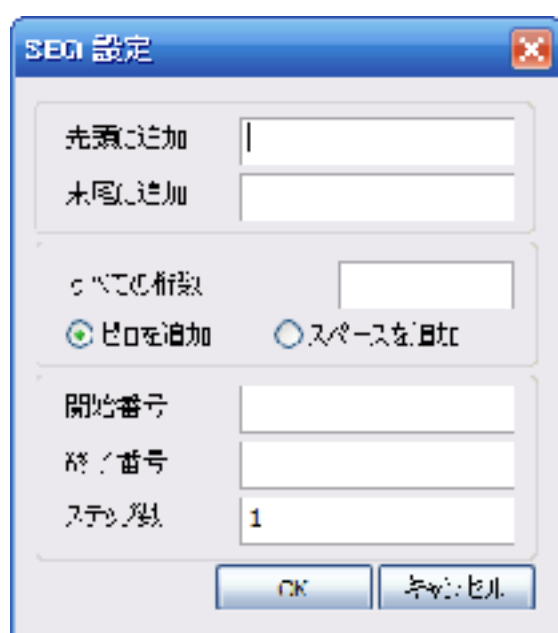
データに連番を入れる

連番を入れて印刷したい場合、データ追加画面で該当項目の右にあるSEQボタンをクリックします。

例では番号の項目に設定しています



SEQ 設定画面が表示されます



先頭に追加：番号の頭に付与したいテキスト、数字など
末尾に追加：番号の末尾に付与したいテキスト、数字など

すべての桁数：番号部分の桁数

0を追加：不足桁数を0で埋める

スペースを追加：不足桁数をスペースで埋める

開始番号：始まりの番号

終了番号：終わりの番号

ステップ数：番号の増加ステップ

(1 = 一つずつ、5 = 5 ずつ)



SEQ Settings dialog box with the following fields and values:

- 先頭追加: S
- 末尾追加: 号
- 文字数: 6
- ☒ Add Zero ☐ Add Spaces
- Start Number: 1
- End Number: 5
- Step Count: 1
- Buttons: OK, Cancel

例：S000001号からS000005号までの連番を項目に設定したい場合、下図のように設定します

上から頭に"S"
末尾に"号"

"6"桁

"0"で埋める

"1"から始まり

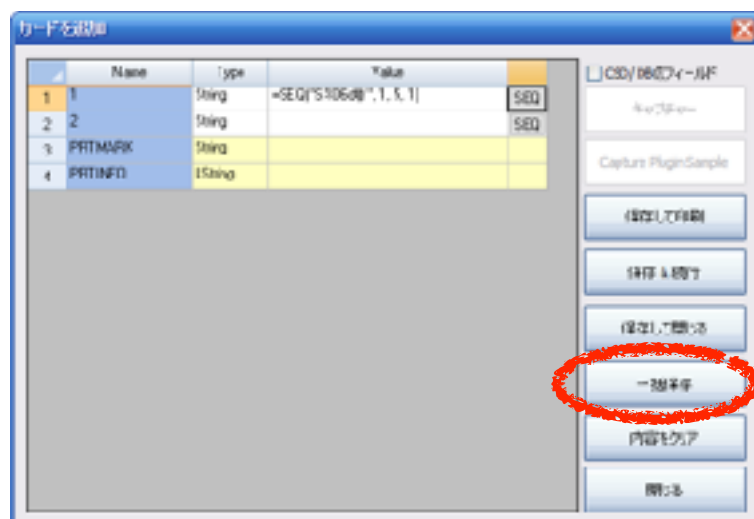
"5"で終了

"1"ずつ増加

* 2とした場合は2, 4, 6, 5の場合は5, 10, 15

OKボタンをクリックします。リストには式が表示されます。

設定後に一括保存ボタンをクリックするとリストに採番した番号がテキストで登録されます。

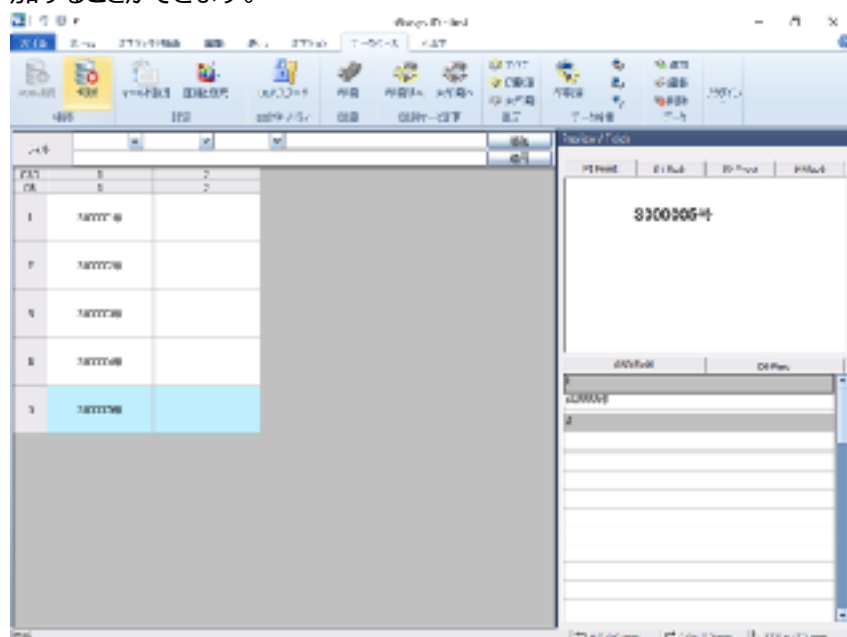


カードを設定 (Set Card) dialog box showing a table with columns: Name, Type, Value. The table contains the following data:

Name	Type	Value
1	String	=SEQ("S10600", 1, 5, 1)
2	String	
3	String	
4	String	

Buttons on the right: OK, Cancel, Capture PlugSample, 保存して印刷, 保存と閉じる, 保存して開く, **一括保存** (highlighted with a red circle), 内容もクリア, 閉じる.

番号は編集することもできますが、連番用の式の修正はできませんので注意してください。新たに連番を設定して追加することができます。



Main application window showing a list of items and a detailed view of the selected item. The list has columns: No, Name, Type, Value. The detailed view shows the item name "S10600" and a list of values: S10600, S10601, S10602, S10603, S10604, S10605.

7.4 画像の編集、変更

7.4.1 最適な画像サイズ

例：IDカードで使用する顔画像のデータサイズ

標準的なサイズ：縦 3 cm x 横 2.4cmの場合、ピクセルサイズは354 x 286ピクセルです。

計算例

縦 3 cm ÷ 2.54cm (1 インチ) = 1.18インチ / 横 2.4cm ÷ 2.54cm (1 インチ) = 0.954インチ

印刷時の解像度は300Dpiですからそれぞれ

縦 1.18インチ x 300Dpi = 354ピクセル / 横 0.954インチ x 300Dpi = 286ピクセルとなります。

縦 354ピクセル x 横 286ピクセル = 101,224ピクセル (約10万画素)

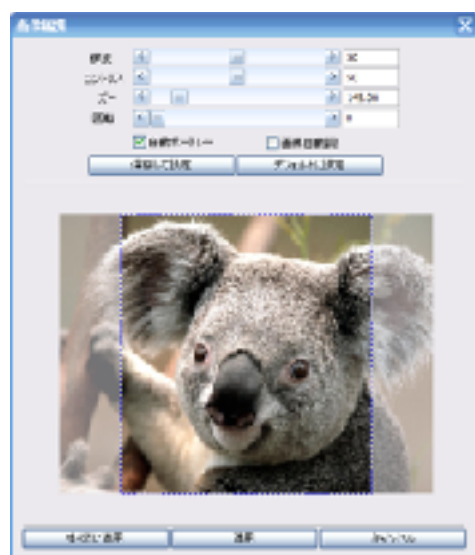
画素数では約10万画素程度ですので、高画素のカメラ等で撮影した画像は大きすぎることがわかります。あらかじめ画像サイズ変換ソフトなどを使用して、画像サイズを小さくしておくことで印刷データが軽くなり、印刷ソフトへの負荷が小さく、パソコンの保存容量も少なく収めることができます。

* 部分拡大が必要な画像のサイズを変更する場合は大きめのサイズにして下さい。

画像フィールドに設定されている画像を変更したり、画像のサイズと位置を簡単に編集することができます。

画面右側のプレビューに表示された画像またはその下部のCSDフィールドの画像をダブルクリックすると画像編集画面が表示されます。

画像中央部の枠線（点線）は、デザイン上の画像範囲です。画像部分をマウスでドラッグすると、画像が移動して位置を変更することができます。



7.4.2 画像編集画面の機能

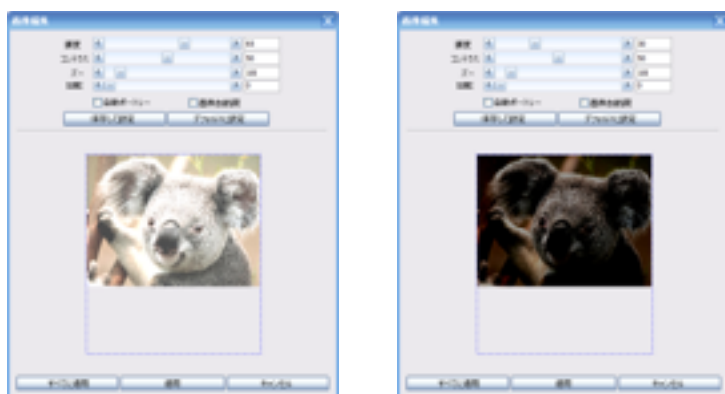
画像編集後はプレビュー画面のみに適用されますのでご注意ください。

編集した設定はデータベースに記録されます、元画像はそのまま加工されませんのでいつでも元に戻すことができます。そのため、CSDフィールドとデータに表示される画像は元の画像のままになっています。

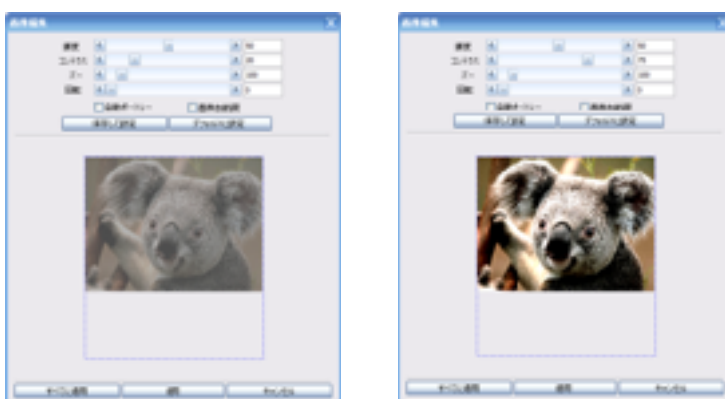
7.4.2.1 画像編集の各機能

既に登録されている画像を編集するには、右パネルのプレビュー内に表示されている画像をダブルクリックすると画像編集画面が開きます。

輝度：値を入力するかマウスでバーをドラッグして調整します。（調整可能幅 0-1000）



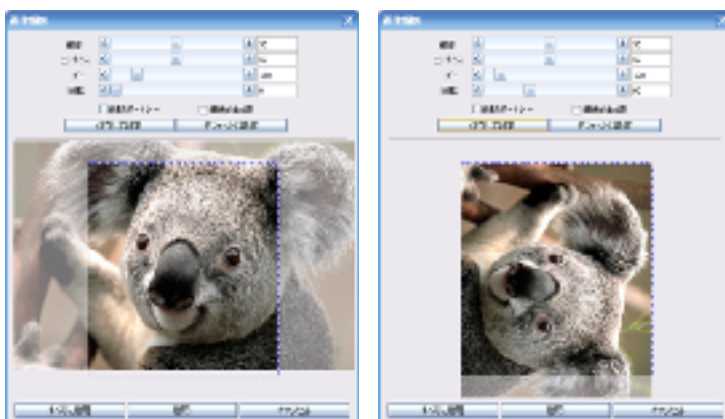
コントラスト：値を入力するかマウスでバーをドラッグして調整します。（調整可能幅 0-100）



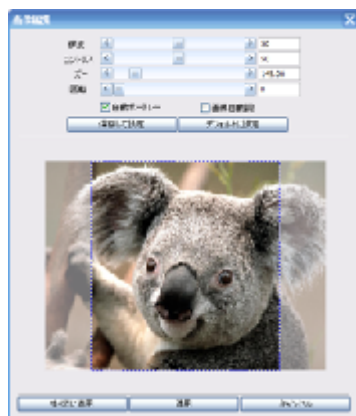
ズーム：ズーム比率を入力するかマウスでバーをドラッグして調整します。（調整可能幅 10-1000）



回転：角度を入力するかマウスでバーをドラッグして調整します。（調整可能幅 0-270）



自動ポートレート：チェックを入れると顔を判断して自動的に位置とサイズを調整します



その他

画像自動調整：チェックをいれると画像の輝度とコントラストを自動調整します。

保存された設定を適用：データベースに保存されている設定を適用します。

デフォルト設定で表示：デザインで作成した設定で表示します。

設定を全てのファイルに適用：全てのデータに適用します。

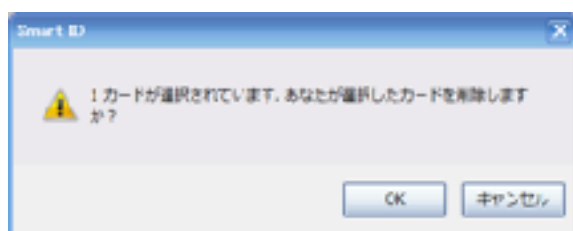
この画像設定を保存：表示中の設定をデータベースに保存します。（この画像のみに適用されます）

7.5 データベースのデータを削除する

データベースからデータを削除するには編集したい行を選択し（複数行を選択可）、データ>”削除”ボタンをクリックします。



削除データ数と確認画面が表示されますので選択して下さい。



7.6 外部データをインポートする

新規プロジェクトの作成後、または既存のデータベースにエクセルファイルやmdbなど外部のデータを追加します。

データをインポートする前に外部データとGRASYS IDソフトウェアのデータベースの項目が合致しているかフィールドリストで確認しておきましょう。

データベースタブ> 設定> フィールド設定をクリックするとフィールドリスト管理画面が表示されます。

画面右に表示されるCSDフィールドはデザインに設定した入力フィールド名です。DBフィールドはデータベースに設定された項目名です。

このDBフィールド項目と外部データの項目の内容が合致していることを確認しましょう。

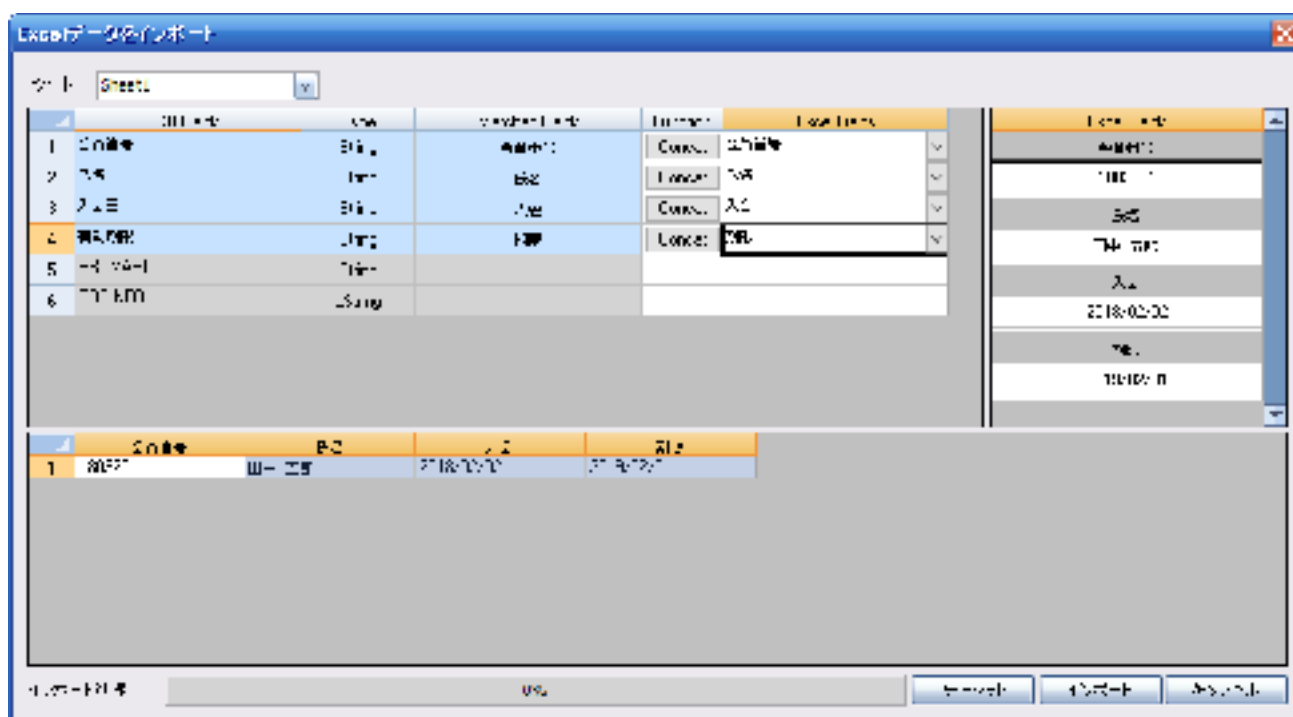
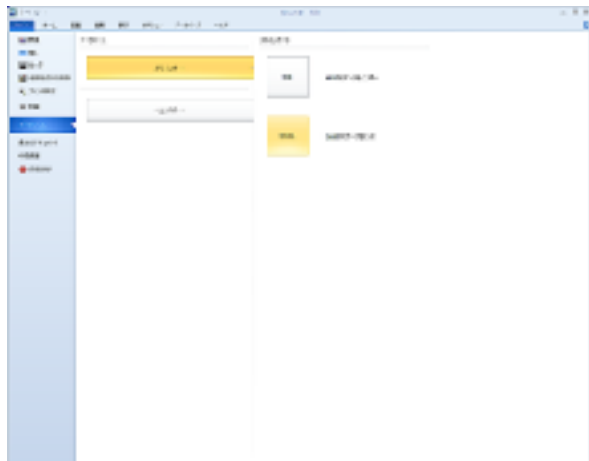
画面右にはデータベースの項目名とデータタイプが表示されます。

* 印刷に使用しないが、外部データに他の項目が含まれている場合はインポート実施前にGRASYS IDソフトウェアのデータベースに同項目を設定しておく必要があります。”8.2 データベースの設定を変更する”を参照してください。

7.6.1 EXCELデータをインポートする

* エクセルファイルをインポートする場合、PCにマイクロソフトエクセルがインストールされていることが必要です。インポートするEXCELファイルはマクロなどは使用できません、**1行目にフィールド名を設ける。あらかじめすべてのセルを“文字列形式”**にしておくとトラブルを避けることができます。

ファイルタブ > データベース > インポート > EXCELデータをインポートするを選択します。



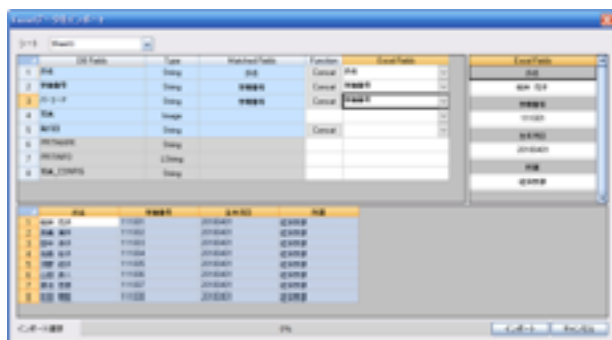
該当のExcelファイルを選択し、開くボタンをクリックすると上図のExcelデータのインポート画面が表示されます。画面下段はプレビューです。最初の行はフィールド名で、データは**2行目以降から取込みます**。また、インポートするエクセルのシートが異なる場合は画面上部のシートで該当のシートを選択して下さい。画面右上のExcel Fieldsには画面下部のリストを選択するとデータの内容が表示されます。

*** 画面下段のプレビューを確認し、意図と異なる場合はExcelシートを見直してください。**

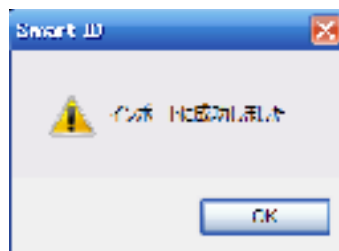
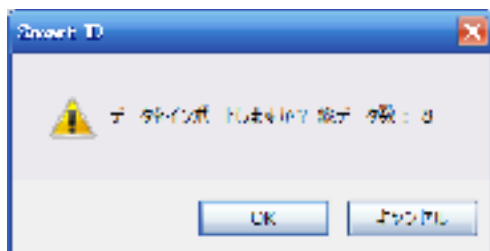
画面上部の左側のDB Fieldはデータベースのフィールド名、右側のExcel Fieldは"Excelファイルの項目名"です。DBフィールドに適合するExcelの項目を選択して"インポートする" ボタンをクリックするとExcelファイルのデータがデータベースに追加されます。

プレビューでデータを選択すると、選択したデータだけがインポートされます。* デフォルトでは全選択状態になっています。選択し直すには左端の数字部分をすべてドラッグして選択して下さい

インポートボタンをクリックすると、インポートデータ数が表示されますので確認して進めて下さい。



インポートが完了すると インポートに成功しました 画面が表示されますので、OKをクリックしてリボンバーのデータベースタブをクリックするとインポートしたデータがリスト表示されます。



参考：ワークシートの項目を連結して取り込む

Excel	Matched Field	Function	Excel Fields
String		Concat	
String		Concat	
String		Concat	

インポート画面でExcel Filedsが選択されていない行で使用することができます。Excel Filedが選択選択されていると、設定してもそちらが優先されますのでご注意ください。

画面内の"Concat"ボタンをクリックすると下図のフィールドを連結するウィンドウが表示されます、



Excelのフィールドの▼をクリックするとExcelのフィールド名が表示されます。
この例では、所属と学籍番号を連結します。



所属を選択して追加ボタンをクリック、その後学籍番号を選択して追加ボタンをクリック、OKボタンをクリックして終了です。

Matched Fieldに内容が表示されますので、インポートボタンをクリックして継続します。再度追加すると上書きされます、

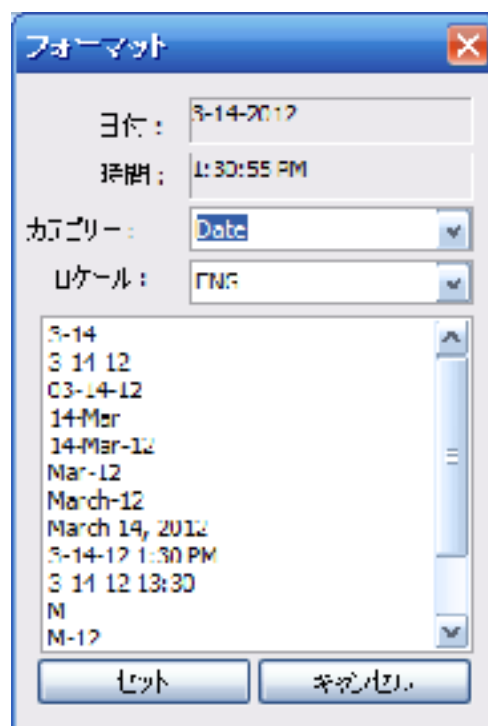
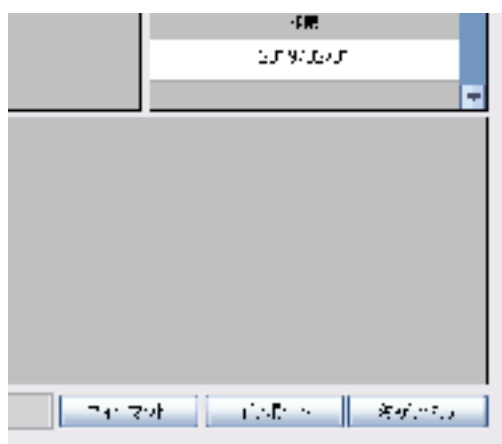
所属	学籍番号	Concat	OK
所属	学籍番号	Concat	OK
所属	学籍番号	Concat	OK

GRASYS ID

インポート後、データベースタブを選択するとExcelの2つの項目が連結されてインポートされたことがわかります。項目間には半角スペースが入ります

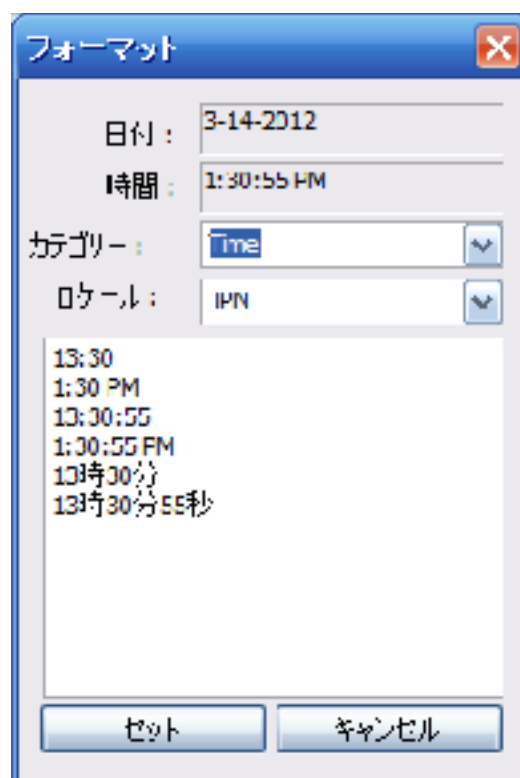
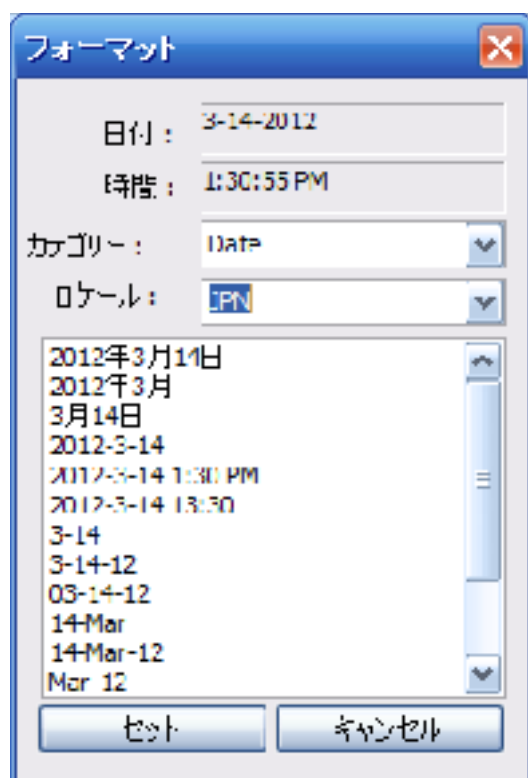
参考：日付形式データを取り込む

エクセルファイルに日付形式のデータがある場合、フォーマットを設定することができます。
インポート画面下部のフォーマットボタンをクリックすると、フォーマット画面が表示されます。



カテゴリー：でDate日付かTime時間かを選択します。

ロケール：でJPNを選択すると、下図のように表示形式のリストが現れますので選択してセットボタンをします。
下図左は日付、右は時刻の場合です。



* 元号形式には対応していません。

* エクセルの全ての日付形式が対象です、列ごとの変更はできません。

セット後はインポート画面下部の表示に反映されます。

ID	ID Field	Type	Selected Field	Function	Case
1	金庫番号	String	金庫番号	Connect	金庫番号
2	ID	String	ID	Connect	ID
3	氏名	String	氏名	Connect	氏名
4	住所	String	住所	Connect	住所
5	PTT番号	String			
6	PTT番号	String			

ID	氏名	住所	生年月日
1001001	田中 一郎	〒100-0001 東京都千代田区千代田	2018年2月10日

参考：エクセルで画像を一括登録する

画像データのファイル名がID番号等と同じでひとつのフォルダに収められている場合はあらかじめエクセルに画像のファイルパスとファイル名を登録しておくことができます。

例：画像ファイル名がIDと同じで拡張子がjpgの場合

画像を保存しておくフォルダを作成し、画像を入れておきます。

フォルダを開き、画像をひとつ選択して右クリック＞プロパティを表示します。

“場所”の欄の Cから始まる文字列をすべて選択してコピーしておきます。

A	B	C	D	E
ID	氏名	画像		
1001001	佐藤 一郎	C:\Users\Grasys\Desktop\Image\1001001.jpg	C:\Users\Grasys\Desktop\Image\	C:\Users\Grasys\Desktop\Image\1001001.jpg
1001002	田中 一郎		画像フォルダのパスを貼り付け	D2&A2&"jpg"を指定する
1001003	高橋 一郎		↓へコピー	↓へコピー
1001004	鈴木 清司			
1001005	奥村 恵子			
1001006	八重樫 智子			

上記の場合は1行目がフィールド名でID、氏名、画像で3列使用していますので

2行目（フィールド名がない場合は1行目）の4列目にコピーした共通する文字列を貼り付けておきます。

A列がIDでD列がファイルパスになっています。

5列目にはにエクセルの&関数を使用して=D&A&".jpg"と入力すると、保存したフォルダのファイルパスとファイル名が出来上がります。

D列 C:\Users\Grasys\Desktop\Image\

+

A列 ID

+

拡張子 .jpg

（Dのファイルパス文字列に¥記号とID番号と拡張子の.jpgをつなげた文字列です）

この二つの項目を下方へコピーすると全ての画像のファイルパスとファイル名が出来上がります。

このままではセルに数式が入っているため、5列目に出来上がった文字列を範囲選択して、コピーします。

画像の項目（3列目）にカーソルを移動して右クリック、形式を選択して貼り付けで値を貼り付けます。

※関数を取り除き、結果だけを文字列として貼り付けています。

貼り付けた 3 列目と 5 列目の内容を比較し問題がなければ 4 列目、5 列目を削除して下さい

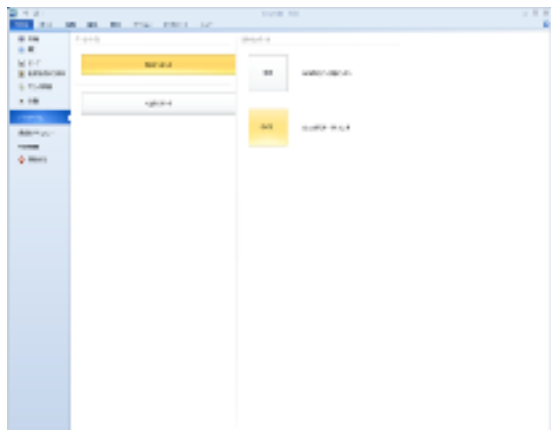
このエクセルデータをインポートすると画像が自動的にデータベースに表示されます。

データベースタブで表示されるリストに画像が表示されない場合はExcelファイルのディレクトリパスで指定した画像ファイルの拡張子、ファイル名、ファイルパスが大文字/小文字、全角/半角で異なるなどの場合があります。

GRASYS IDのデータベース画面ではリストに表示される画像をダブルクリック、または追加、編集画面で“…”をクリックして画像を直接選択することも出来ます。

7.6.2 MDBデータをインポートする

ファイルタブ > データベース > インポート > MDBデータをインポートするを選択します。
エクスプローラ画面で該当のmdbファイルを選択し、開くボタンをクリックします。



下図のMDBからのインポート画面が表示されます

下段の最初の行は外部データの項目名です。実際にはデータの2行目以降から取込みます。データの1行目が項目名でない場合は画面上部の「始めの行にタイトルがあります」のチェックを外してください。また、インポートするMDBのテーブルが異なる場合は上部のテーブル名で該当のテーブル選択して下さい。

右上のMDB Fieldsは画面下部のリストの行を選択するとそのデータ内容が表示されます。

画面上部の左側のDB Fieldsはデータベースの項目名、右側のMDB FieldsはMDBの項目名です。DBフィールドに適合するMDBのフィールドを選択して「インポートする」ボタンをクリックするとMDBファイルのデータがデータベースに追加されます。

*ご注意

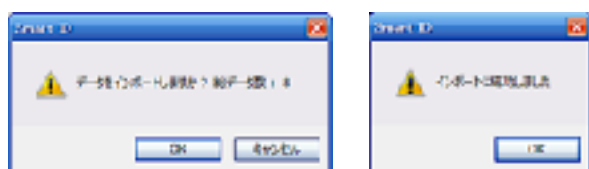
右図のようにデータが一部だけ選択されている場合、選択したデータだけがインポートされます。下記例では3データが選択されていますので、3件だけがインポートされます。デフォルトでは全選択状態になっています。

選択し直すには左端の数字部分をすべてドラッグして選択して下さい。

インポートボタンをクリックすると、インポートデータ数が表示されますので確認して進めて下さい



インポートが完了すると インポートに成功しました 画面が表示されますので、OKをクリックしてリボンバーのデータベースタブをクリックするとインポートしたデータがリスト表示されます。

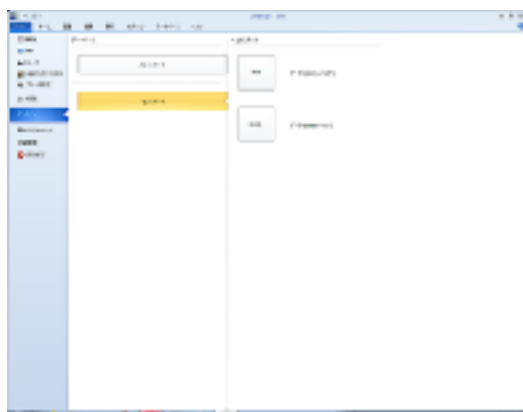


7.7 データをエクスポートする

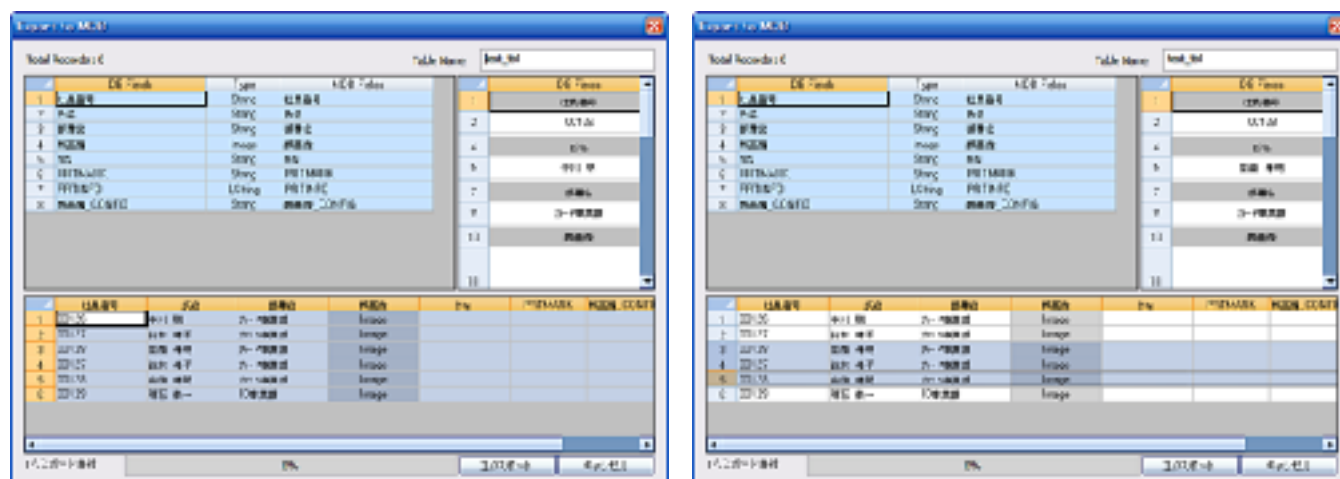
内部のデータベースのデータをMDBファイルまたはEXCELファイルでエクスポートすることが出来ます。

7.7.1 MDBファイル形式でエクスポートする

ファイルタブ > データベース > エクスポート > MDBデータをエクスポートするを選択します。



Export to MDB画面が表示され、下段にデータが表示されます。デフォルトは全て選択された状態になっています

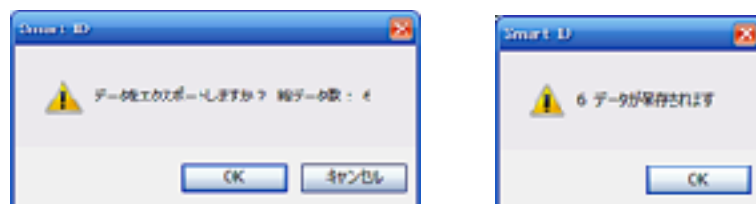


* 注意：右図のように一部のデータを選択した場合、そのデータだけがエクスポートされます。選択し直すには行番号部分をドラッグして全て選択してください

エクスポートボタンをクリックすると、エクスポートの確認と総データ数が表示されますので確認してOKをクリックします

保存場所を選択し、ファイル名を入力して保存ボタンをクリックして下さい

エクスポートが完了するとデータ数が表示されますので、OKをクリックして完了します



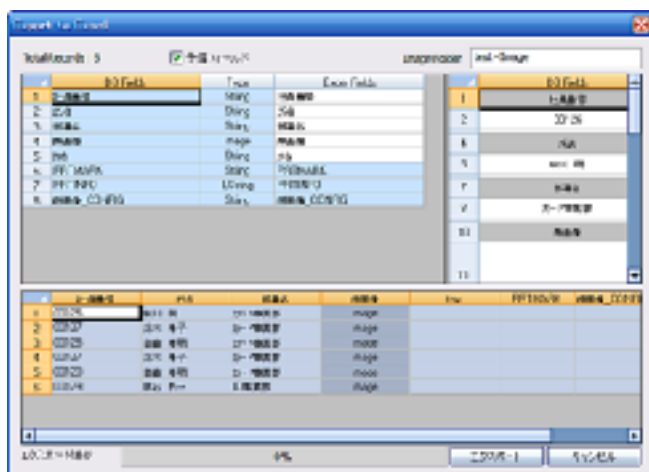
7.7.2 EXCELファイル形式でエクスポートする

ファイルタブ > データベース > エクスポート > EXCELファイルへエクスポートするを選択します。

Export to Excel画面が表示され、下段にデータが表示されます。デフォルトは全て選択された状態です

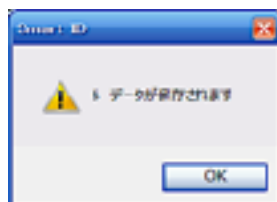
* 注意：下図右の用に一部のデータを選択した場合、そのデータだけがエクスポートされます。選択し直すには行番号部分をドラッグして全て選択してください

画面上部の予備フィールドにチェックを入れると印刷済マーク、印刷情報、画像調整情報（画像のある場合のみ）の項目も一緒にエクスポートされます。



エクスポートボタンをクリックすると、エクスポートの確認と総データ数が表示されますので確認してOKをクリックし、保存場所を選択し、ファイル名を入力して保存ボタンをクリックして下さい

エクスポートが完了するとデータ数が表示されますので、OKをクリックして完了します



エクスポートデータの構成

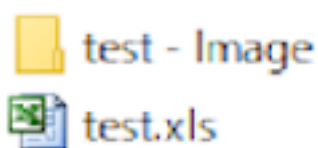
エクスポートしたデータは指定した場所に保存されます。

例：プロジェクト名がtestで画像がある場合

test-Imageフォルダに画像が保存されます。

test.xlsでエクセルファイルが書き出され、画像がある場合は画像ファイルへの相対パスが記載されます

フォルダ構成



8 デザインを変更する

デザインを変更したい場合はリボンバー＞ホーム・描画・編集の何れかのタブで行うことが出来ます。

8.1 フィールドを追加する

8.1.1 データベースと連動しないオブジェクトを追加する

可変情報でないテキストや画像などの追加の場合はデザインにオブジェクトを追加するだけです。

8.1.2 データベースと連動するフィールドを追加する

ホームタブを選択、デザインに追加するオブジェクトを配置して、該当オブジェクトを選択し右クリック、入力フィールド＞新規フィールド追加を選択します。

新規フィールド追加画面が表示されますので、フィールド名を追加します。

追加した入力フィールドはデータベースタブで確認することが出来ます。

8.2 データベースの設定を変更する

印刷しないがデータベースに他の項目を設定したい場合などは下記の手順で内容を変更／調整して下さい。

例えば、外部データを取込みたいが、印刷項目以外のデータも一旦取込んで印刷後にデータベースのエクスポート機能を使用して他の用途で使いたい場合などに有効です。

データベースタブの接続＞切断をクリックしてデータベースを一旦切り離します。

続いて、MDB接続をクリックするとMDB管理画面が表示されます。

画面右上の新規フィールド追加の下記内容を入力します。

フィールド名：追加する項目名

フィールドタイプ：下記から選択が出来ます。

String：文字列、255文字まで LString：文字列、255文字まで

Image：画像

フィールド長：文字列の長さ（255まで）

下記例ではフィールド名：かな、フィールドタイプ：String、フィールド長：50に設定



フィールド追加ボタンをクリックすると、画面右側最下段にかな項目が追加されました。

項目を削除したい場合は画面左側で該当項目を選択し、フィールド削除ボタンをクリックします。

* やり直しが出来ない操作です、注意して操作して下さい。

MDB接続ボタンをクリックするとデータベースが再接続されます。

* 印刷項目でない項目は、画面には表示されません

Tips、データの追加

追加したフィールドにはデータが入っておらず、入力する必要があります。



すでにエクセルなどの元データがある場合は、コピー等バックアップをとっておきます。

ファイルタブ＞MDBのエクスポート＞Excelデータをエクスポートするを選択し、データベースのデータを書き出すことができます。エクスポートの際は予備フィールドにチェックを入れ、画像調整や印刷情報なども一緒にエクスポートしておくと便利です。

このエクスポートしたExcelデータの空の項目にデータを追加して新たにインポートすることも可能です。

＊既存のデータが必要でない場合、データをエクスポートしたあとでデータベースタブで表示されているデータを全て選択してから削除ボタンを使用して削除しておきます。その後新しいデータをインポートします。

（削除していない場合は既存のデータにインポートしたデータが追加されます）

8.3 フィールド設定を変更する

デザインの入力項目とデータベース項目の組合せを変更したい場合は、ツールバー＞データベース＞設定＞フィールド設定をクリックするとフィールドリスト管理画面が表示されます。



csd Field : デザインの入力項目

DB Field : DBの項目

データベース側のDB Fieldを選択して変更することが出来ます。

この時、数字、文字、画像などのフィールドタイプに注意して設定して下さい。

設定後フィールドを適合ボタンをクリックすると組合せが適用されます。

9 差し込み印刷

9.1 データを選択する

データを印刷したり、削除するデータを選択することができます。データベースタブでリスト表示されているデータの選択はリスト番号の部分をクリックすると水色に反転して選択することができます。ランダムな複数行のデータは、Ctrl キーを押しながら行をクリックして選択します。

未印刷データの表示

印刷していないデータだけを表示するには表示＞未印刷をクリックすると未印刷データだけが表示され、印刷済をクリックすると印刷済のデータだけが表示されます。すべてのをクリックすると全データが表示されます。

印刷マーク

印刷済に設定されたデータは重複印刷を避けるため、選択しても印刷する事ができません。

未印刷のデータを印刷済に、印刷済のデータを未印刷に設定することができます。

設定したいデータを選択後、マーク＞印刷済をクリックすると印刷済の状態になり、データは淡黄色に替わります。未印刷をクリックすると未印刷状態になり、印刷することが可能になります。

9.2 データを印刷する

データ選択後、カードを印刷するには、"ファイル">"印刷"をクリックするか、リボンバーリボンバー＞印刷アイコンをクリックします。

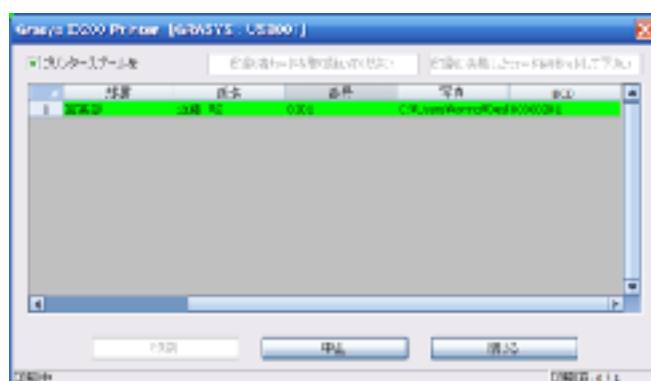
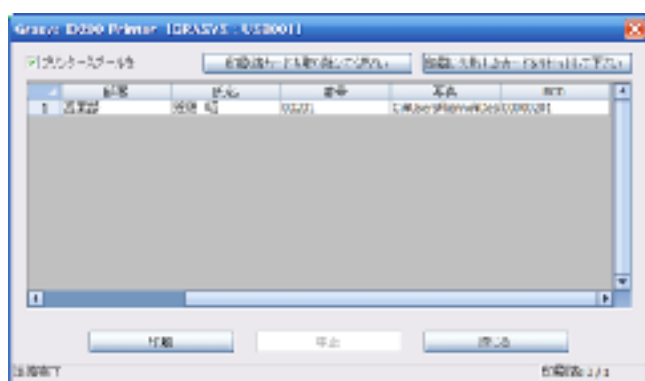


プリンターの選択ウィンドウが表示されますので印刷するプリンターを選び、“確認”ボタンをクリックします。



印刷準備ができるとリスト画面に切り替わりますので印刷ボタンをクリックします。

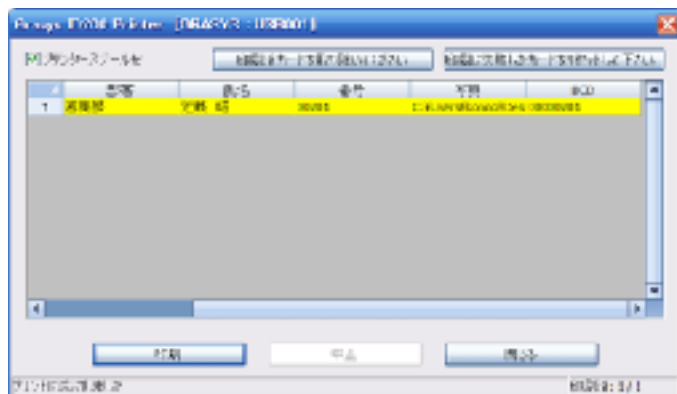
複数の印刷データがある場合は、連続してデータを印刷できるように“プリンタープールを使用して印刷する”をチェックします。印刷中のデータ行はグリーン色になります。



印刷画面のリストの背景色は下記の状態をあらわしています

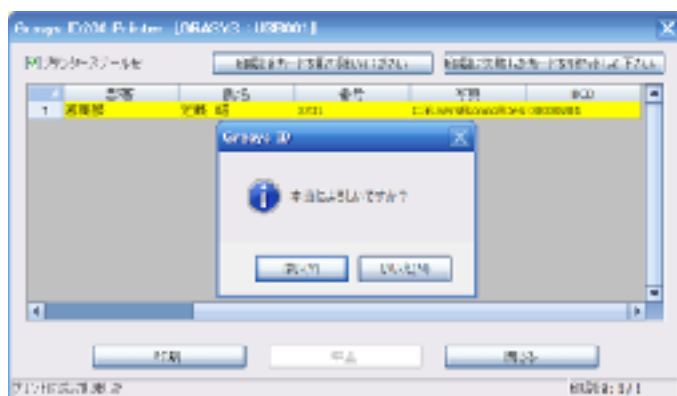
- 白色: 印刷可能
- 淡黄色: 印刷済
- 黄緑色: 印刷中
- 黄色: 印刷完了（印刷中）
- 赤: エラー（印刷中）

印刷が完了したデータは黄色い背景に変化します。



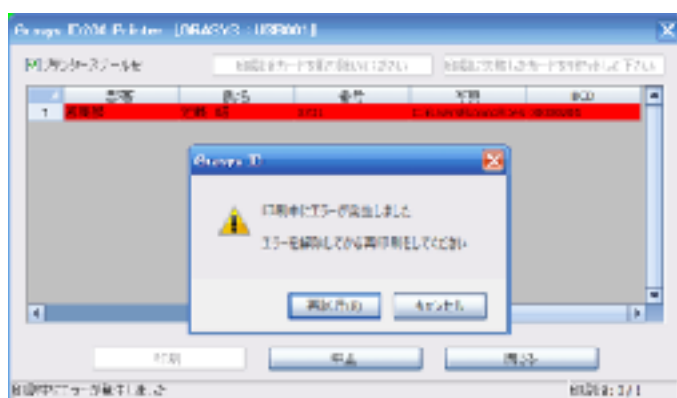
ID	名前	性別	年齢	写真	ID
1	佐藤 一郎	男性	25		0000001
2	佐藤 一郎	男性	25		0000002

印刷完了後は閉じるボタンをクリックすると確認画面が表示されます。



9.3 印刷時のエラー

エラーが発生した場合は再試行／キャンセルウィンドウが表示されます。
プリンターのエラー表示を確認して下さい。



ID	名前	性別	年齢	写真	ID
1	佐藤 一郎	男性	25		0000001
2	佐藤 一郎	男性	25		0000002

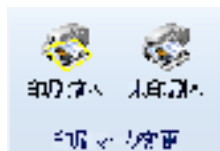
データベースリストの該当データの色は変わりません

* ID130シリーズの場合：Watchman.exeを起動してPC画面でエラー番号を確認出来ます。

ほとんどの場合、再試行ボタンをクリックするとエラーカードが排出され、エラーが発生したデータを再度印刷します。

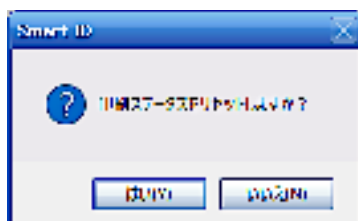
※プリンターのエラー表示がエラー15またはMagnetic R/W errorの場合は磁気を書込に失敗しています、磁気書込は印刷前に行いますので、エラーカードは再利用することが出来ます。
 ※印刷工程で発生したエラーの場合はカードを再利用することは出来ません。

9.4 データの印刷状態の変更

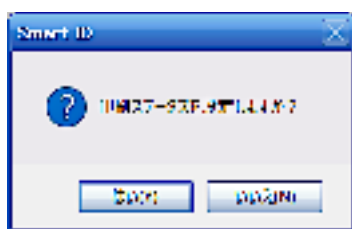


重複発行を防止するため、一度印刷したデータはそのままでは再印刷することが出来ません。

再印刷する場合は該当の行を選択してデータベースタブ>印刷マーク変更>“未印刷”ボタンをクリックすると状態を変更して未印刷状態になります。



未印刷のデータで印刷対象から除外したい場合は印刷マーク>印刷をクリックすると印刷済の状態に変更することが出来ます。



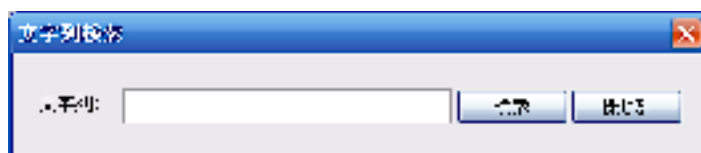
9.5 データ検索

データベースタブの検索パネルの下記アイコンをクリックするとデータの検索が可能です。

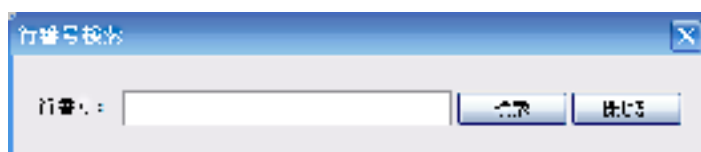
印刷済：印刷したデータだけを表示

未印刷：未印刷のデータだけを表示

文字列：文字列を入力して合致するデータを検索



位置：データの行番号を指定して表示します



9.6 データのフィルター検索

大量のデータからデータを検索したい場合、フィルターバーを使用します。

フィルター				追加 適用
-------	--	--	--	----------

フィルターバー

1つ目のセクション:

AND : 複数の条件を全て満たす 

OR : 複数の条件でいずれかを満たす

2つ目のセクション:

検索するフィールド名を選択する

3つ目のセクション: 条件"を指定する

< 検索対象は条件より小さい

< > 検索対象は条件と違う

= 検索対象は条件と同じ

> 検索対象は条件より大きい

like 検索対象は条件を含む

4つ目のセクション: 条件を入力します

追加

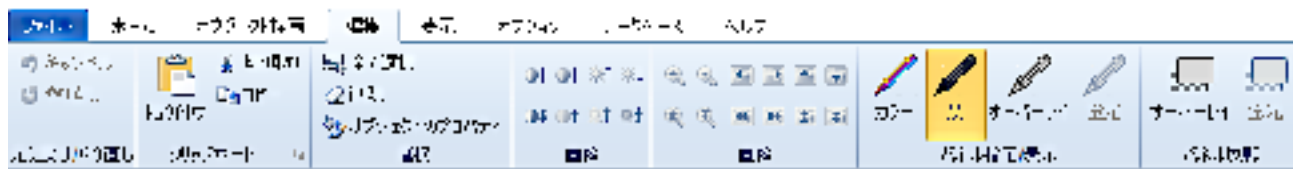
追加ボタンで複数の条件を指定可能です

適用

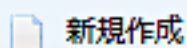
検索を開始します

10 リボンバーの機能

10.1 ファイルタブ



10.1.1 新規作成

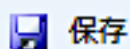


新しいプロジェクトを作成する。

10.1.2 テンプレート

テンプレートウィザードを起動します。

10.1.3 保存



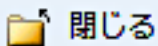
プロジェクトを保存する。

10.1.4 開く



既存のプロジェクト（cspファイル）を開く。

10.2.5 閉じる



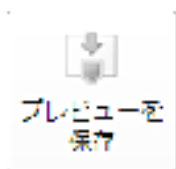
プロジェクトを閉じる。

10.1.6 印刷



プロジェクトを印刷する。

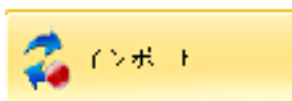
BMPファイルとしてプレビューを保存



カードデザインをプレビュー用にBMPファイルとして保存する。画像サイズは1012 x 636ピクセル

10.1.7 データベース

インポート



MDBデータをインポートする

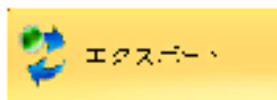


EXCELデータをインポートする



EXCELファイルからデータをインポートします、実行するとファイルを選択してデータを取り込むことができます
エクセルがインストールされている必要あり、xls、xlsx形式のみに対応

エクスポート



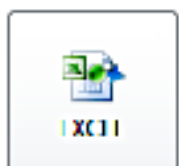
この機能を使用して、現在のプロジェクトデータを保存することができます。

MDBファイルでエクスポートする



mdbファイル形式でエクスポートします

Excelファイルでエクスポートする



excelファイル形式でエクスポートします

Excelへエクスポートするウインドウが開きます。

データフィールドとプロジェクトのすべてのデータが画面下部に表示されます。画面右上で選択したデータの内容を確認することができます。また、左上にDBのフィールド名とmdb(またはExcel)のフィールド名を確認することができます。

* MDBの場合

エクスポート画面の上部に全記録データ数を表示、エクスポートするテーブル名を設定することができます。

* Excelの場合

エクスポート画面の上部に全記録データ数と追加フィールドが表示されます。"追加フィールド"にチェックを入れると、印刷結果フィールド、印刷履歴フィールド、イメージフィールド、履歴フィールドをExcelファイルにエクスポートします。画像を書き出すイメージフォルダ名のデフォルトは"プロジェクト名-Image"となっており、イメージフォルダ欄で変更することができます。

エクスポートしたエクセルの画像ディレクトリ列には、上記のフォルダのパスと保存された画像ファイル名を書き出します。"エクスポートする"をクリックするとファイル名と場所を指定してエクスポートします。

10.1.8 履歴データの印刷

履歴データの印刷

データの印字履歴を印刷します。

印刷履歴は、印刷時刻、日付、使用するプリンタID、プリントの結果、エラー、エラーコードと使用されるデータの情報を記録します。

印刷時刻	日付	使用するプリンタID	プリントの結果	エラー	エラーコード	使用されるデータのID
2015-04-28 09:26:44	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:27:10	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:27:32	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:27:59	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:28:17	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:28:26	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:28:54	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:29:10	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:29:17	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:29:59	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:30:59	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:40:17	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:40:48	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:41:15	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:41:23	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:41:42	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:42:17	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:42:18	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:42:26	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000
2015-04-28 09:43:1	Grasys	00150	Printer	GRASYS	008001	6-8000

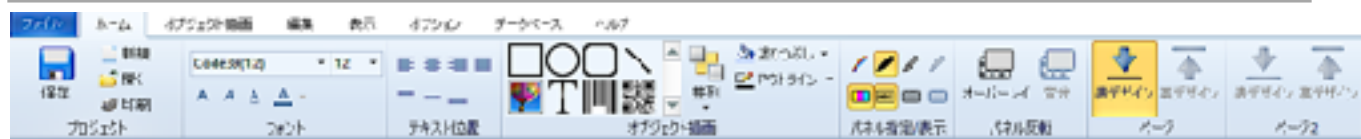
印字履歴例

10.1.9 終了

終了

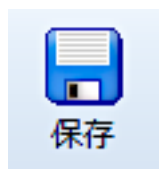
プログラムを終了する。

10.2 ホームタブ

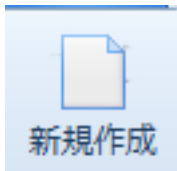


10.2.1 プロジェクト

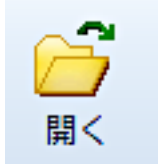
セーブ：保存します。:



新規作成：新規プロジェクトを作成する。



開く：既存のプロジェクト（cspファイル）を開く。

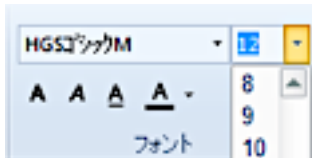


印刷：選択したデータを印刷する。



10.2.2 フォント

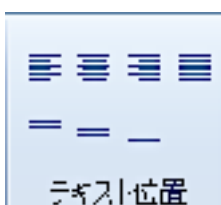
ジェットのフォントの種類とサイズ等を設定出来ます。



10.2.3 テキスト位置

文字配置の変更はリボンバー＞ホームタブまたは描画タブ＞パラグラフでも設定が可能です。

テキストオブジェクトを選択し、下記アイコンをクリックして文字配置を変更します



10.2.4 描画

図形、文字列、バーコードオブジェクトを作成します



10.2.5 整列

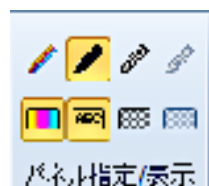
オブジェクトの整列、塗りつぶし、枠の設定をします



10.2.6 パネル指定

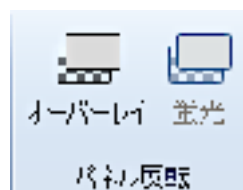
オブジェクトの印刷にをどのインクパネルを使用するか指定します

インクパネルに指定されたオブジェクトの表示／非表示が出来ます



10.2.7 パネル反転

オーバーレイ、蛍光インクパネルを反転印刷することが出来ます



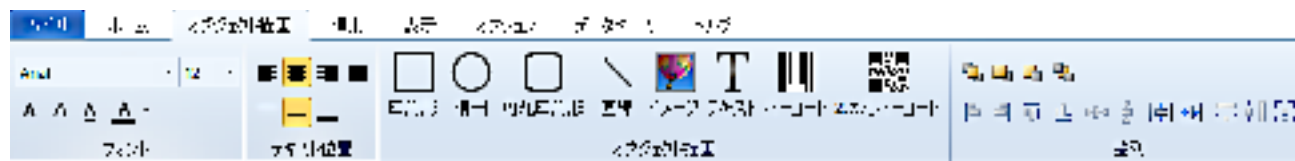
10.2.8 ページ

両面デザインの場合、オモテ／裏を切り替えて表示します



10.3 描画タブ

ホームタブと同様の下記パネルを表示します、説明は省略します。



- ・フォント
- ・段落／位置

描画

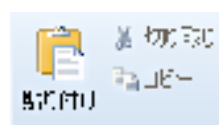
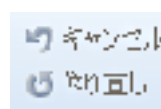
- ・整列

10.4 編集タブ

10.4.1 クリップボード

元に戻す／やり直し

直前の操作をキャンセル、やり直しすることができます。



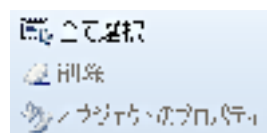
オブジェクトのコピー、切り取り、貼付けをします。

10.4.2 選択

オブジェクトをすべて選択

選択したオブジェクトを削除

選択したオブジェクトのプロパティを表示



10.4.3 画像補正

画像のコントラスト、明るさを調整します



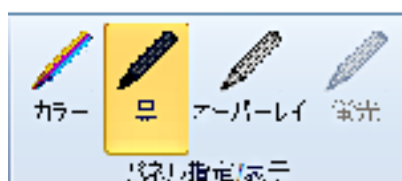
10.4.4 画像位置

画像ズーム、オブジェクト枠内の画像の位置を設定します



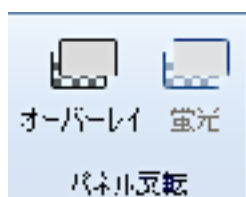
10.4.5 パネル指定

オブジェクトを選択し、印刷時のインクパネルへの指定をします



10.4.6 パネル反転

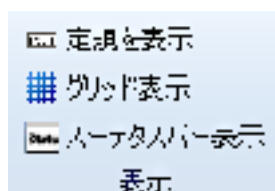
オーバーレイ、蛍光パネルのデザインを反転します



10.5 表示タブ



10.5.1 表示



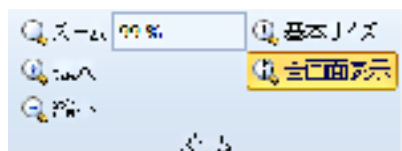
定規表示：画面に定規を表示します

グリッド表示：ガイド用のグリッド（格子）を表示します

ステータスバー表示：画面下部に選択オブジェクトの左上位置、サイズ、カーソルの座標をミリ単位で表示します

10.5.3 ズーム

ズーム：拡大率%を入力してデザインの表示サイズを変更します



拡大：スクリーンを拡大します

縮小：スクリーンを縮小します

基本サイズ：画面比100%のサイズで表示します

全画面表示：画面に余白を付けて表示します

10.5.4 パネル表示／非表示

パネルに指定されているオブジェクトを表示／非表示にします



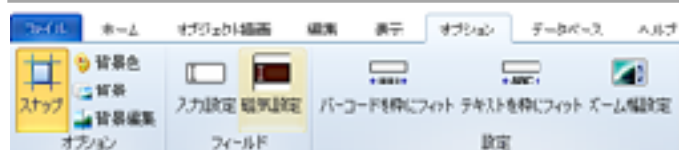
10.5.5 ページ



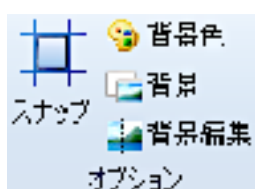
ページ1：デザインのオモテ／裏を切り替えます（両面機のみ）

ページ2：使用できません

10.6 オプションタブ



10.6.1 オプション



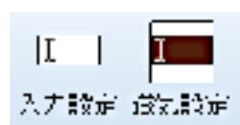
スナップ：オブジェクトをグリッドに合わせます

背景色：背景の色を設定します

背景：背景画像の表示／非表示を設定します

背景編集：背景画像の選択、変更を行ないます（使用時は背景を表示）

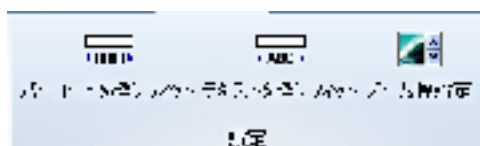
10.6.2 フィールド



入力設定：入力フィールド設定を表示します

磁気設定：磁気設定ウインドウを表示します

10.6.3 設定



バーコードを枠にフィット：バーコードを枠幅に合わせて自動拡張します

テキストを枠にフィット：テキストを枠幅に合わせて自動拡張します

ズーム幅設定：ズームボタンのズーム比、移動ボタンの移動比、画像調整の調整幅を設定します

10.6.4 言語

メニュー等の表示言語を選択します

* オブジェクトプロパティは一部のみ変更されます



10.7 データベースタブ



10.7.1 接続

MDBに接続：mdbファイルに接続します



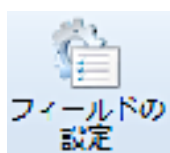
切断：接続中のmdbファイルを切断します



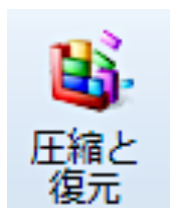
接続しているMDBを切断します。

10.7.2 設定

フィールドの設定：プロジェクトのCSD項目とデータベースフィールドの照合と変更ができます。

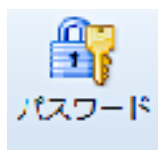


圧縮と復元：データベースを圧縮・復元します。



10.7.3 セキュリティ

DBパスワード：データベースにパスワードを設定することができます。



10.7.4 印刷

選択したデータを印刷します



10.7.5 印刷マーク

印刷：選択したデータを印刷済みの状態にします。

未印刷データで印刷から除外したい場合や、再発行などで印刷済のデータを再度印刷したい場合に使用します。



未印刷：選択したデータに未印刷の状態にします。



10.7.6 表示

印刷済みのみ、未印刷のみ、または全てのデータを表示します。



すべてのカード：データベース上の全てのデータを表示させる。:



印刷されたカード：印刷済みのデータを全て表示する。



未印刷カード : 未印刷のデータを全て表示する。

10.7.7 検 索

データを検索します

印刷されたカード : 次の印刷済みカードを探す。



未印刷カード : 次の未印刷カードを探す。



文字列 : テキストボックスに入力した条件を満たすデータを探します。

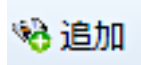


文字列 : 入力した行番号のデータを探します。

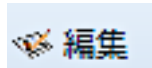


10.7.8 データ

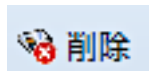
追加 : データを追加する。



編集 : 選択したデータを編集する。



削除 : 選択したデータを削除する



11 サンプルデータの使用方法

インストールCDには 種々用途向けに作成済のサンプルデータが保存されています

11.1 サンプルファイルを使用する

ここでは社員証サンプルを例にして使用方法を説明します。

デスクトップのGRASYS IDアイコンを右クリック、ファイルの場所を開くを選択しテンプレートフォルダを表示させ、フォルダを開くと会員証などデザインのみ、デザインと入力項目設定済みのテンプレートを選択することができます。

下記例では社員証＞社員証デザインファイル（入力フィールド設定済）＞社員証3を選択。

あらかじめ項目設定済のデザインファイルが表示されます。



ここでは下記のように変更して使用する例を記載します。

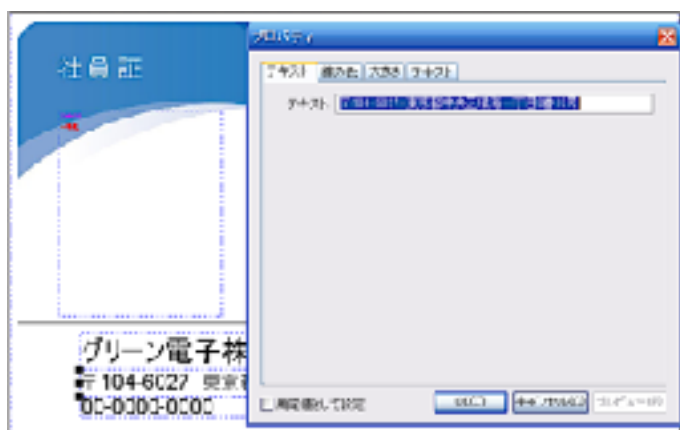
固定情報		テンプレート
社名	グリーン電子株式会社	社名
住所	〒060-0007 札幌市中央区南一条西五丁目	住所
tel	06-1234-5678	社名
背景デザイン	背景デザイン(1012x636ピクセル)	背景デザイン
ロゴ	作成済み(1012x636ピクセル)	追加
可変情報		
部署	可変データ	項目名 所属部署欄に変更
氏名	可変データ	
番号	可変データ	
写真	可変データ	
バーコード	可変データ 番号欄に 1 には縦線NWを 追加	追加

11.1.2 手順

- ・固定項目の会社名、住所、電話の内容を変更
- ・可変データ項目名の「所属」を「部署」に変更
- ・番号項目の情報を元にしたバーコードを追加
- ・背景デザインを差し替え
- ・レイアウト調整
- ・ロゴ画像を追加
- ・プロジェクト作成
- ・差込み印刷用エクセルデータ作成
- ・エクセルデータインポート

11.1.3 会社名などの変更

例では住所部分をダブルクリックし、テキストプロパティの内容を上書き



同様に会社名、TEL、を変更、「所属」を「部署」へ変更します。



11.1.4 バーコードを追加

バーコードを追加する前にバーコードの下地を作成します。

四角形オブジェクトを追加してダブルクリックし、プロパティで塗りつぶしや線を設定します。



作成した下地の上にバーコードオブジェクトを追加します。番号と同じ情報を利用するので同じ値を入力しておきます。

バーコードに変動情報を適用するために入力フィールドを設定します。



バーコードを右クリック、入力フィールド> 新規フィールドを選択して入力フィールド名を設定します。ここではフィールド名をBCDとしています。

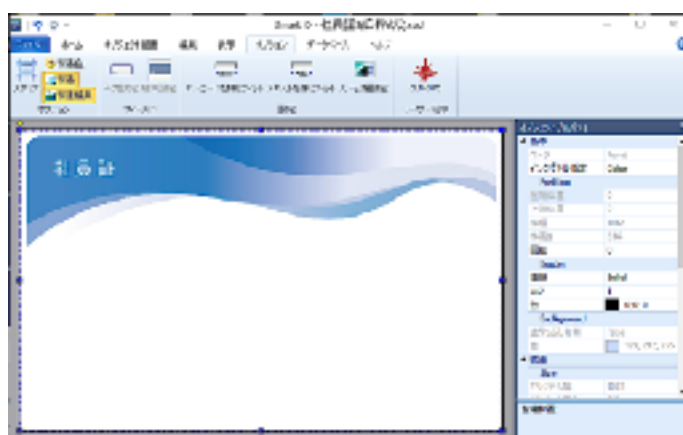


11.1.5 背景画像を差し替え

背景画像サイズは1012x636ピクセルで作成してください。

オプションタブ> 背景編集をクリックすると、背景画像だけが選択された状態になりますので、Deleteキーで削除してください。

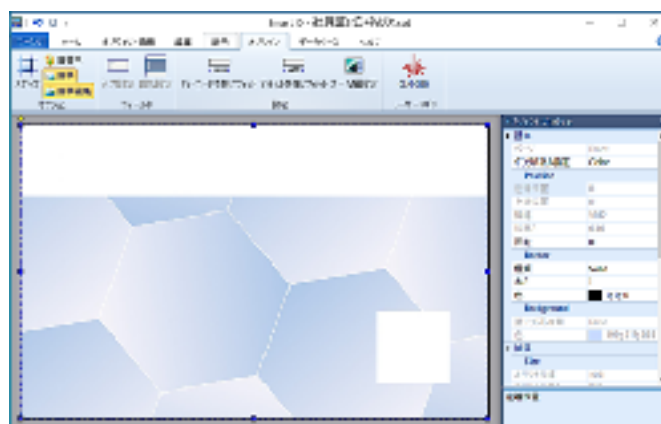
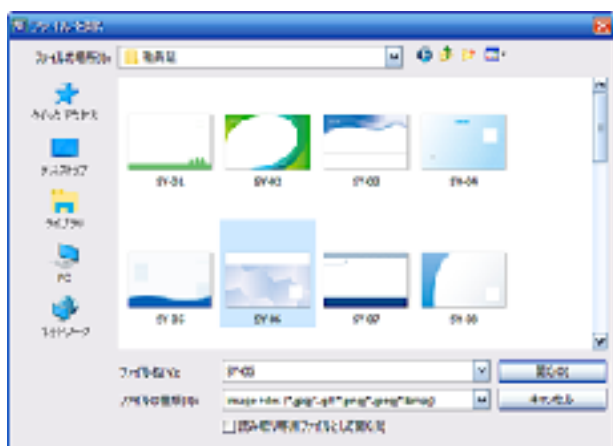
*あるいは背景画像上で右クリック> イメージ切替で直接画像を選択して変更することができます。



削除後は背景のないデザインが表示されます。



再度、背景編集ボタンをクリックすると背景画像選択用のウィンドウが表示されますので、背景画像をを選択して開くボタンをクリックすると背景画像に適用されます。



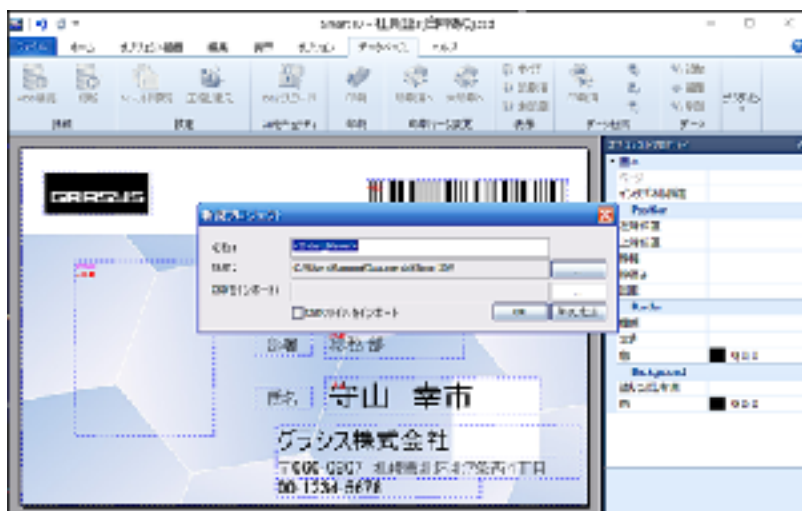
他のタブやデザイン以外の部分ををクリックするとオブジェクトが再表示されます。



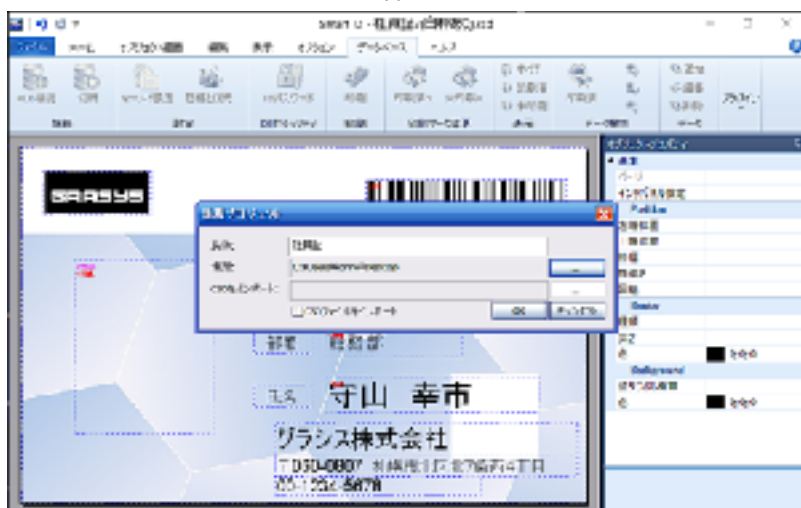
オブジェクトを移動してレイアウトを変更します
画像オブジェクトを追加してロゴ画像を選択し、配置します。

デザインの変更が終了したのでデータベースタブをクリックします。

デザインを含むプロジェクトを作成するために新規プロジェクトウィンドウが表示されますのでプロジェクト名を入力して保存場所を指定します。



例ではプロジェクト名：社員証、保存場所：デスクトップとしています。



プロジェクトが作成されると、デザインの入力フィールドをもとにしてデータベースが自動的に作成されます。プロジェクト作成はデザイン作成途中でも可能です、入力フィールドの追加、削除等デザインの変更の都度、データベースも自動的に変更されます。

デスクトップに「社員証」プロジェクトフォルダが作成され、そのフォルダ内に下記のファイルが生成されています。

社員証.csd：デザインファイル

社員証.csp：プロジェクトファイル

社員証.mdb：データベースファイル

Backup（フォルダ）：各ファイルのバックアップデータが保存されます

ImageTmp（フォルダ）：一時的な画像保管用

ここまでで、念のためにファイルタブ＞保存をクリックして保存しておきます。

11.1.6 差込み印刷用の可変データを作成する

エクセルファイルに可変項目を設定しておきます。

エクセルのカラムA、B、C、Dにそれぞれ部署、氏名、番号、写真（写真データがある場合）という項目を作成します。

注意

- ・番号は文字列としてください

- ・写真はファイルパス＋ファイル名を入力します。

（例：C:¥ユーザー¥Default¥Documents¥Image1¥xxx.jpg）

* 画像ファイルがインポートするエクセルファイルと同じ場所にある場合はファイル名のみでも構いませんが、例えば部署ごとに画像をまとめた場合など、画像保存場所はあらかじめルール化しておいた方が後に再利用しやすくなります。また、社員番号がある場合はファイル名を社員番号にしておくと便利です。

この例では画像をファイルのリンクで表示させるので、画像の場所だけをデータベースに保存します。* ファイルのリンクのみを取り込みますので、画像自体の移動、削除はしないでください。

取り込んだデータはデータベース内に保存されます。

エクセルデータが出来上がったら、ファイルタブ> データベース> インポート> Excelをクリックして対象のエクセルファイルを開いてインポートを開始します。

インポート方法は**7.6 外部データをインポートする**を参照ください。

12 ユーティリティについて

プリンターの設定や濃度調整、動作点検用のユーティリティソフトが数種類用意されています。

インストールCDのGrasysUtilitySetup.exeを起動すると、CドライブにGRASYSユーティリティフォルダが作成されます。

使用方法についてはユーザーマニュアルを確認してください。

13 ID130,150 磁気カード印刷時のご注意

13.1 両面機で磁気ストライプカードを印刷する

両面印刷対応機の場合、設定により磁気ストライプ面をオモテまたは裏として扱うことができます。

13.2 表面にカラー / 裏面に黒印字 + 磁気書込の場合

手順は以下のとおりです

YMCKOKインクを使用、オモテ面カラー、裏面黒の両面デザインを作成して磁気設定を完了します。

この時、裏面のデザインは磁気ストライプ部分にかからないように作成します。

リボンバー> ファイルタブ> プリンタ設定> プロパティ> 基本設定> ドキュメントのオプション> Magnetic Stripe Encoding Method> Magnetic Card R/Wの設定を「Flip Mode」に設定してOKボタンをクリックします。

プリンタの動作は下記のとおりです

印刷指示→カード挿入→磁気書込→オモテ面印刷→反転→磁気面印刷

13.3 磁気面をオモテ面として使用する場合

手順は以下のとおりです

YMCKOKリボンを使用、オモテ面のデザインが磁気ストライプ部分がかからないようにデザインを作成します。

プリンタプロパティ> 印刷設定> Side/Media> FrontのMediaをJISMSに設定し、磁気部分にオーバーレイ印刷をしないように設定します。

リボンバー> ファイルタブ> プリンタ設定> プロパティ> 基本設定> ドキュメントのオプション> Magnetic Stripe Encoding Method> Magnetic Card Flip R/Wの設定を「Normal Mode」に設定しOKボタンをクリックします。

プリンタの動作は下記のとおりです

印刷指示→カード挿入→磁気書込→反転→表面印刷→反転→裏面印刷

13.4 印刷済カードを使用、磁気面に黒のみを印刷の場合

手順は以下のとおりです

Kインクを使用します。

* KOインクを使用する場合は磁気部分にオーバーレイが印刷されないように印刷設定のプロパティ、Side/MediaタブのFrontをJIS MSに設定します。

片面Kのデザインを作成して磁気設定を完了します。

リボンバー> ファイルタブ> プリンタ設定> プロパティ> 基本設定> ドキュメントのオプション> Magnetic Stripe Encoding Method> Magnetic Card Flip R/Wの設定を「Normal Mode」に設定しOKボタンをクリックします。

プリンタの動作は下記のとおりです

印刷指示→カード挿入→磁気書込→反転→磁気面印刷

14 ID130,150 プリンターの詳細設定

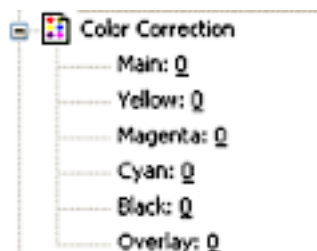
プリンターのプロパティまたはデザインソフトのリボンバー> ファイルタブ> プリンタ設定> プロパティを開き、詳細設定ボタンをクリックします。ID130,150とID200で設定画面が異なりますので注意してください。

14.1 詳細設定の機能

リセット



ドライバーの設定をデフォルトに戻します



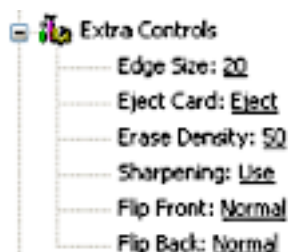
Color Correction: カラー補正。色濃度を調整するにはCardPrinterSetupを使用します。

※設定は保存されませんのでご注意ください。



Resin Black (K) Processing: レジンブラック（K）の基準値を設定

* 設定は変更しないで下さい。



Extra Controls

EDGE Size: 全面印刷を使用しない場合に余白のサイズを設定

Eject Card: 印刷後のカードの設定です、通常はEject設定です。

Erase Decity: リライトプリンタID130R用の消去濃度設定です、変更しないで下さい

Sharpening: 画像のシャープさを調整します、通常はUseです。

Flip Front: 表面の印刷の方向を設定します。

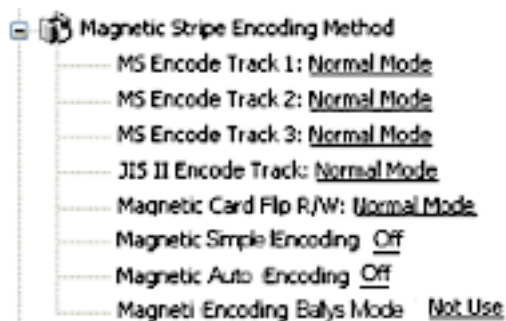
Normal: 通常

Flip Vertical: 縦方向に反転

Flip Horizontal: 横方向に反転

Rotate 180 degrees: 180度回転

Flip Back: 裏面の印刷の方向を設定します、設定値は表面と同様です。



Magnetic Stripe Encoding Method 磁気エンコード設定

MS Encode Track 1～3、JIS II Encode Track

Normal Mode ; トラックを使用する

Not Use : トラックを使用しない

※デザインの磁気設定に依存していますので全てNormal Modeのままで構いません

Magnetic Card Flip R/W：磁気カード使用時、磁気面の表裏設定

※JIS2規格のカードの場合は下記が有効、ISO規格の場合は逆になります。

Not Use：使用しません

Flip Mode：磁気面をウラ面として印刷します。

Normal Mode：両面機のみで使用可能、磁気面をオモテ面として印刷します。

Magnetic Simple Encoding

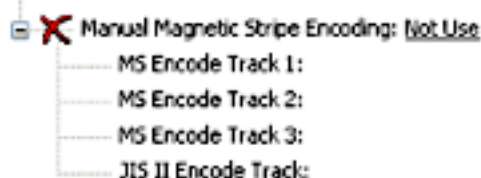
磁気ストライプのエンコードと印刷で磁気ストライプカードがGRASYSプリンタ内に給送された場合、通常はカードが印刷位置に移動してから、さらにエンコードのために磁気ストライプのエンコード位置まで移動しますが、磁気シンプルエンコーディングを「On」に設定すると、カードが直接磁気ストライプのエンコード位置に移動しますので磁気ストライプのエンコード速度が速くなります。

Magnetic Auto Encoding:

磁気自動エンコーディングを「On」に設定した場合、プリンタが自動的に磁気ストライプカードの種類（LoCoまたはHICO）を認識してエンコードすることができます。

Magnetic Encoding Ballys Mode:

このモードでは、磁気ストライプのエンコードでバリーズプロトコルをサポートするためのものです（バリーズは、ISOやJISではありません）。ホテル用のエンコードです



Manual Magnetic Stripe Encoding 手動磁気エンコード設定

画像や文字などデザインを含むデータで磁気エンコードだけを実施したい場合、Encoding or Laminating Onlyに設定します。

Not Use：通常は磁気書き込みの場合もNotUseに設定

Encoding and Printing：固定情報を磁気エンコードして印刷する場合に使用します。

Encoding or Laminating Only：印刷せず、磁気エンコードまたはラミネートだけを行う場合に使用します

Text String Magnetic Stripe Encoding：テキスト文字磁気エンコード

テキスト文字磁気エンコードは、テキスト文字列を磁気ストライプカードにエンコードすることが出来ます。スタートトラックは、磁気ストライプ符号化データの先頭ビット、エンドトラックは磁気ストライプ符号化データの終了ビット用です。スタートビットおよびエンドビットを設定することができます。

例：JISトラックに「123456789」をエンコードする場合は、Windowsでノートパッドに1123456789と入力し、ノートパッドからスマートプリンタドライバを使用してエンコードします

15 ID200 磁気カード印刷時のご注意

15.1 磁気エンコーダー取付面を確認する

ID200シリーズでは片面機でもオモテ面の磁気ストライプに対応することができます。磁気エンコーダー取付けの際にオモテ面用（上側）／裏面用（下側）をお申し出ください。両面機は上／下どちらでもオモテ／裏面の磁気ストライプに対応しています。

片面機でオモテ面に磁気ストライプがあるカードでエンコードが必要な場合はご注文の際にお知らせ下さい。導入後の変更はセンドバック方式で対応しています。

15.2 エンコード前、後にカードを反転させる場合（両面機のみ）

プリンターの印刷設定＞Encodingタブをクリックするとエンコード設定が可能になります。

エンコードを実施する場合はDoEncodingにチェックを入れるとAdvanced Encoding Optionボタンが有効になりますのでクリックします。

プリンターでは磁気エンコード後に印刷を開始します。

設定内容

Magnetic Encoding Advanced Option項目

Card Stripe side: Bottom(裏面)／Top（オモテ面）

Before Flip：磁気エンコード前に反転

After Flip：磁気エンコード後に反転

Before FlipとAfter Flipは磁気エンコードを起点としたカード反転指示です、例えば磁気エンコードが下に付いたID200プリンターで磁気面をオモテにしたい場合はAfter FlipをYesに設定すると磁気面をオモテとして使用することが出来ます。

この場合磁気面を下にしてカードをセット＞カード挿入＞磁気エンコード＞反転＞オモテ印刷＞反転＞裏印刷という動きになります。デザインは磁気面を意識する必要はありません。

* 磁気エンコードが上についているプリンターで磁気面を裏面として扱いたい場合もAfter FlipをYesに設定すると磁気エンコード後にカードが反転し、印刷、カード反転、印刷という動きになります。

両面機で磁気エンコードが下についているプリンターで磁気面だけに印刷したい場合（片面のみの印刷で磁気面をオモテとして利用したい場合）も同様にデザインは片面だけを作成してAfter FlipをYesに設定すると磁気面にデザインが印刷されたカードになります。

磁気カードをセットする際はエンコードの取り付け位置にあわせてセットして下さい。

16 ID200プリンターの詳細設定

プリンターのプロパティまたはデザインソフトのリボンバー＞ファイルタブ＞プリンタ設定＞プロパティを開き、詳細設定ボタンをクリックします。

16.1 詳細設定の機能

詳細設定をするには印刷設定画面のレイアウトタブー詳細設定ボタンをクリックします

- **Reset Default Values:** ドライバーの設定をデフォルトに戻します
- **Color Correction:** カラー補正、色濃度を補正するにはCardPrinterSetupを使用します。

※設定はデザインファイル（CSD）にのみ保存されますのでご注意ください。

- **Main [-100:100] :** 全パネルを調整
- **Yellow [-100:100] :** Yパネルを調整
- **Magenta [-100:100] :** Mパネルを調整

- **Cyan [-100:100]** : Cパネルを調整
- **Black [-100:100]** : K（黒）パネルを調整
- **Overlay [-100:100]** : Oパネルを調整
- **Position Processing:** パネル位置を設定します。
 - **Color [-32:32]:** カラーパネルの位置を設定する
 - **Mono [-32:32]:** K（黒）の位置を設定する
 - **Overlay [-32:32]:** Oパネルの位置を設定する
- **Resin Black(K) Processing:** K（黒）の基準を設定する
 - **Text [0:100]:** 黒のオブジェクトを抽出するためのデンシティ基準を設定
 - **Dot [0:100]:** 黒のドットを抽出するためのデンシティ基準を設定
 - **Threshold [0:100]:** ディザリングのデンシティ基準を設定
 - **Dithering Degree [0:100]:** ディザリングのシャープネスを設定
 - **Resin Extraction:** デザインソフトを使用するときは、レジブラックを抽出する方法を設定できます。（GRASYS IDを使用する場合は、このオプションを選択する必要はありません）自動的に設定されます。
 - **Black Object:** レジブラックを自動的に抽出（線、四角、円、バイナリ画像など）
 - **Black Text:** テキストのみのレジブラックを抽出する
 - **Black Dots:** 全ての黒のレジブラックを抽出する
 - **Black Dots only:** 全ての黒のレジブラックを抽出し、カラーパネルには印刷しない
 - **Not Use:** 黒を抽出しない
- **Extra Controls :** その他のオプション

- **Fast Alignment [On/Off]:** 磁気エンコーダへのカード挿入位置または通常印刷を設定。オンの場合、プリンタはエンコードする時間を節約できます
- **Rewritable Erase Density [0:100] :** リライトプリンタの消去デンシティを設定
- **Wait Option:**
 - **Wait at Internal Module Contactless Encoding Position [On/Off]:** オプションの内蔵RFエンコーダで待機するかどうかを設定
 - **Card Side [Front/Back]:** 待機時のカードの方向を設定
 - **Wait Position [-100:100]:** 基準位置から待機するカードの位置を設定する。単位：0.1mm
 - **Wait Time [0:1000]:** 待機時間を設定、単位：秒
 - **Wait at External Module Contactless Encoding Position [On/Off]:** オプションの外部RFエンコーダで待機するかどうかを設定
 - **Card Side [Front/Back]:** 待機時のカードの方向を設定
 - **Wait Position [-100:100]:** 基準位置から待機するカードの位置を設定する。単位：0.1mm
 - **Wait Time [0:1000]:** 待機時間を設定、単位：秒
 - **Wait at Internal Module Contact Encoding Position [On/Off]:** オプションの内蔵ICエンコーダで待機するかどうかを設定
 - **Card Side [Front/Back]:** 待機時のカードの方向を設定
 - **Wait Position [-100:100]:** 基準位置から待機するカードの位置を設定する。単位：0.1mm
 - **Wait Time [0:1000]:** 待機時間を設定、単位：秒

17 ご参考：プラグインについて

非接触ICカードエンコードオプションを内蔵したプリンタの場合、非接触ICカード（Felica Lite-SやMifare）のエンコードが可能になります。

サンプルでMifare1プラグインを同梱しています。エンコード用にSPI_CLASS_CONTACTLESS_CARDのプラグインDLLを使用し、ご自身でiniファイルを設定をしていただくことでエンコードをお試しいただけます。

*** サンプルプラグインへのお問い合わせには対応しておりません。**

*** Mifare 1 K、4K、ULカードのエンコード、Felica Lite Sエンコードに対応したカメラ連動可能な各ソフトウェアを販売しております、また、ソフトウェア開発用にGRASYSプリンターのSDKを用意しております。**

RF_ Plugin_Mifare1k.dllについて

GRASYS DBでエンコードしたい項目を設定し、Mifareのエンコード情報を設定してください。

設定

はじめにSmartIDフォルダ内のPluginフォルダに含まれるContactless_Plugin_Mifare1k.iniを使用するプロジェクトフォルダへコピーしておきます。

[データベース]タブで[非接触カード]ボタンをクリックし、Contactless_Plugin_Mifare1Kを選択します。

その後、Set Contactless Card Encodingウインドウが表示されます。

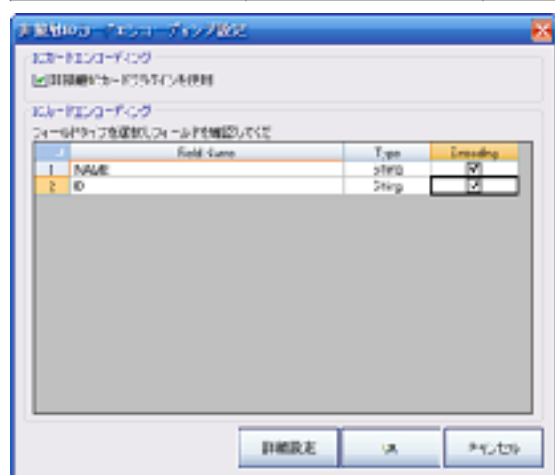
エンコーディングを使用するには、Use Contactless Card Plugin Encodingのチェックボックスをオンにします。

該当の項目のEncodingのチェックボックスをチェックします。

上の図の例では、NAMEとID項目がチェックされていますのでSPI_VDATAの*pInputデータは下記ようになります。

SPI_VDATA	*pInput
nVersion	1
nTotalSize	256

nFields		3
field[0]	szName	L"Duali ABCM"
	nType	SPI_FIELD_DATATYPE_RAWDATA
	nSize	4
	value	4bytes Function pointer
field[1]	szName	"NAME"
	nType	SPI_FIELD_DATATYPE_STRING
	nSize	10
	value	"Test"
field[2]	szName	"ID"
	nType	SPI_FIELD_DATATYPE_STRING
	nSize	14
	value	L"201302"



INIファイルの設定

次に、MIFAREカードをエンコードするために構成を設定するためにINIファイルを編集します。

Contactless_Plugin_Mifare1k.iniファイルをコピーして作成します。デスクトップのSmartIDのアイコンを右クリックしてファイルの場所を開くを選択し、Pluginフォルダ内のContactless_Plugin_Mifare1k.iniファイルをコピーしてプロジェクトフォルダ内に貼り付けてください。

詳細設定ボタンをクリックしてプロジェクトフォルダ内のContactless_Plugin_Mifare1k.iniを選択します。

Contactless_Plugin_Mifare1k.iniがテキストエディタで開かれ編集可能になり、以下のように見えます。

Contactless_Plugin_Mifare1K.ini
[Information] PlugIn=RF_Plugin_Mifare1k.dll CardType=Mifare1k
[Field1] Field=NAME Area=block25.0-block25.15 KeyAB=A Key=FF FF FF FF FF FF

dll用のエンコード設定値は下記のとおりです、目的に合わせて編集することができます。

【Information】 プラグイン情報

Plugin

このiniファイルを使用するdllファイル名

CardType

エンコードするカードの種類

【フィールド#】 エンコーディングにフィールド情報を定義するための項目

印刷のように複数のフィールドを設定することができます

フィールドはGRASYS DBから取得するフィールドの名称を設定する必要があります

例えばフィールドの名称がNAMEとして定義されている場合、DLLファイルはiniファイルのField[i].szName項目のNAMEとGRASYS DBのNAME項目を合致し、NAME項目の文字列を取得してエンコードします。

【AREA】 スマートカードのエンコード位置情報

Mifare1k DLLで定義されたブロック。「block25.0-block25.15」の意味はエンコード対象ブロックは25で 0 バイト目から 1 5 バイト目ということです。

これはRF_Plugin_Mifare1k.dllによって分析されますので、代わりにblock25と定義することができます。また、複数のブロックを必要とする場合はblock25-block26のように多くのブロックを設定して使用することができます。

RF_Plugin_Mifare1k.dllはMifare1Kカードのみをエンコードします。

* Mifare1Kカードは0番目のブロックと4つごとのブロックでのエンコードはできません（例：3、7、11、15…）例えば、ユーザーがAREA= BLOCK3と設定した場合、RF_Plugin_Mifare1k.dllが構文を解析して自動的に次のブロック（BLOCK4）を使用します。

KeyAB

AキーまたはBキーを使用するかどうか定義します。

Key

キーサイドをロードするためのキーの値がKeyABを定義したことを意味します。6バイト、ヘックスストリング。

Mifare1KのデフォルトA・Bキー：FF FF FF FF FF FF

データエンコード

サンプルファイルはContactless_Plugin_Mifare1K.iniに[フィールド1]項目だけが事前定義されていますので前述でSPI_VDATAの*pInputは[フィールド 1]だけがエンコードされます。dllは * pInputの[フィールド 1]の値がフィールド=NAMEと合致するフィールドのデータ「test」をエンコードします。エリアは25ブロックの0バイトから15バイト目に定義されています。

Set Contactless Card EncodingウィンドウでEncodingがチェックされた項目であってもiniファイルで定義されていなければエンコードされません。

Block25	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
データ	T		e		s		t									

元データがUnicodeでNULLを含んでいるため、上記の表では実際のエンコードされたデータサイズは10バイトです、25ブロックの0バイトから9バイト目にエンコードされています。

そしてユーザーが定義した10から15バイト目の領域にはNULLが挿入されます。

例ではiniファイルに[フィールド1]のみ定義されていますので、SPI_VDATAの*pInputの[フィールド2]項目はエンコードされません。

GRASYS DBのインストール後にProgramfiles（X86）> Plaza Create> Grasy> pluginフォルダにあるiniファイルを確認してください。

プラグインにつきましてはProgramfiles（X86）> Plaza Create> Grasy> pluginSampleをご参考にご自身で開発して頂く必要があります。また、本機能へのお問い合わせへの対応は致しておりません。

非接触カードへのエンコード、カメラやスキャナからの画像取込につきましては

Mifare 1 K、4K、ULカードのエンコード、Felica Lite Sエンコードに対応したカメラ連動可能な各ソフトウェアを販売しております、またソフトウェア開発用にGRASYSプリンターのSDKを用意しております。

詳しくは販売店までお問い合わせください。

本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

(C)2017 PLAZA CREATE CO., LTD. All Rights Reserved.

株式会社プラザクリエイトの許可なく複製・改変などを行うことはできません。